教　育　要　項

—— 履修の手引き ——

医歯学融合教育・教養教育

2012 年 4 月～2013 年 3 月

東京医科歯科大学医学部医学科　第 2 学年
東京医科歯科大学歯学部歯学科　第 2 学年

目　　次

医歯学融合教育

医歯学融合カリキュラムについて…… 1
医歯学基盤教育　年間スケジュール…… 3
医歯学基盤教育　生命倫理…… 4
医歯学基盤教育　臨床統計…… 6
医歯学基盤教育　医学英語…… 8
頭頸部・基礎…… 10
科目を履修して得られる能力（医学科コンピテンシーより）…… 16

教養教育

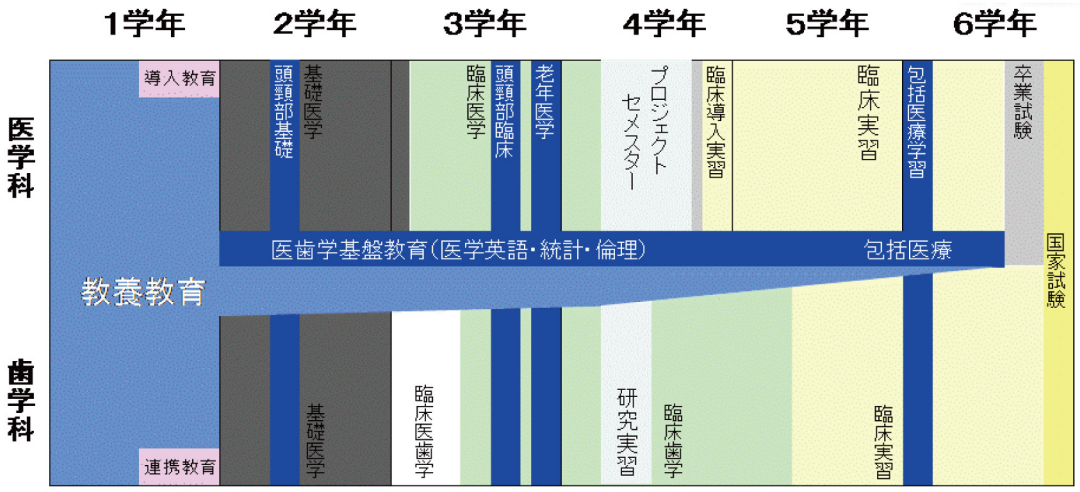
教養教育…… 20
生命科学基礎（生物学・化学・物理学）…… 21
主題別教育について…… 22
東京医科歯科大学全学共通科目履修規則…… 50
教養教育使用予定教室一覧…… 55

湯島キャンパスマップ…… 57
講義室平面図…… 58

医歯学融合教育

医歯学融合教育

ますます進む高齢化や医療の進歩および複雑化により、これからの医療には多職種間で連携・協調のとれた包括的医療が必要とされます。そこで本学では、医学部と歯学部を併せ持つ医療系総合大学としての特色を活かし、複数学科の学生がともに共通目標に向かって学ぶ融合教育カリキュラムを開発しました。具体的には、複数学科、特に医学科と歯学科の学生が卒業時に獲得しておくべき知識・技能・態度のうち、共通するものであり共同で学ぶことにより学習効果が高まるもの、そして将来の連携・協調のもとの包括的医療提供のための基盤となるものを教育対象とし、以下のように６年間を通して様々な学習段階でともに教え合いながら学ぶ機会を創出しました。



医歯学基盤教育

医学歯学を学ぶ上で基盤となる「英語」「臨床統計」「生命倫理」に関し、２年次から４年次にわたってともに学びます。従来「統計」「倫理」は医歯学専門教育の始まる前に行われていましたが、今回それらを関連する内容の専門教育と並行して配置し、そして内容をリンクさせることにより、学習効果を高める工夫を行いました。

頭頸部ブロック

頭頸部領域は、医師・歯科医師ともに診療にかかわる領域であり、医歯学生の両者にとっても非常に重要な領域です。医科および歯科の教員がそれぞれの得意分野を生かし、両学科の学生に同一の教育を行い、両学科の学生のより充実した学習につなげます。

２年次に行われる頭頸部基礎ブロックでは、頭頸部（頸から上の脳を除いた領域）に関する正常な構造・機能に関して、両学科の解剖学・生理学の教員が講義を行います。並行して２学科合同の実習を行い、知識の定着につなげます。

３年次に行われる頭頸部臨床ブロックでは、主として眼科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・形成外科・口腔外科の臨床５科の教員が臨床講義を行います。講義の形態として、患者参加型講義や症例基盤型学習機会なども用意される予定です。頭頸部領域の疾患を理解するうえで必要となる歯科・脳神経外科の講義の一部や頭頸部領域の病理実習もこの期間に含まれます。

両ブロックを通じて医学部と歯学部がともに存在する東京医科歯科大学ならではの教育を提供していきます。

老年医学ブロック

高齢化が進む我が国の未来社会において、「高齢者」とその生理的変化、および、高齢者によくみられる病態を知ることは、医学科・歯学科両学生共に必須のこととなります。３年次に２週間で行われる老年医学ブロックでは、医学科・歯学科合同の講義・実習を通じて高齢者について学びます。

包括医療学習

６年次の最初に行われる包括医療学習では、専門知識・技能習得が進んだ医学部・歯学部の各学科最終学年の学生が一同に会し、各学科学生の混在する少人数グループ教育を行います。ここでは、症例シナリオをもとに、各学生がそれまでに学んだ知識・技能を振り返りながら統合・応用してグループとして共通の目標にむけて問題解決に取り組み、多職種間で連携・協調のとれた包括的医療を提供できる医療人となるための資質を養います。

医歯学基盤教育　年間スケジュール

		1限(9:00-9:50)	2限(10:00-10:50)	3限(11:00-11:50)
4月5日	春期休暇			
4月12日	枠なし			
4月19日		教養教育1	教養教育1	医歯学融合教育　開講式
4月26日		教養教育2	教養教育2	医学英語1
5月2日	特別措置3日(木)分	教養教育3	教養教育3	臨床統計1
5月10日		教養教育4	教養教育4	臨床統計2
5月17日		教養教育5	教養教育5	医学英語2
5月24日		教養教育6	教養教育6	臨床統計3
5月31日		教養教育7	教養教育7	臨床統計4
6月7日		教養教育8	教養教育8	臨床統計5
6月14日		教養教育9	教養教育9	臨床統計6
6月21日		教養教育10	教養教育10	臨床統計7
6月28日		教養教育11	教養教育11	臨床統計8(復習・応用演習)
7月5日		教養教育12	教養教育12	生命倫理1
7月12日		教養教育13	教養教育13	生命倫理2
7月19日		教養教育14	教養教育14	医学英語3
7月26日		教養教育15	教養教育15	医学英語4
8月2日	夏期休暇			
8月9日	夏期休暇			
8月16日	夏期休暇			
8月23日	夏期休暇			
8月30日	夏期休暇			
9月6日	試験期間			
9月13日	枠なし			
9月20日	枠なし	教養教育試験	教養教育試験	医歯学融合予備
9月27日	枠なし			
10月4日		教養教育1	医学英語5	医学英語6
10月11日		教養教育2	医学英語7	医学英語8
10月18日	解剖体慰霊式			
10月25日	試験	教養教育3	医歯学基盤教育予備	医歯学基盤教育予備
11月1日		教養教育4	臨床統計9	臨床統計10
11月8日		教養教育5	臨床統計11	臨床統計12
11月15日		教養教育6	臨床統計13	臨床統計14
11月22日		教養教育7	臨床統計15(復習・応用演習)	臨床統計16(復習・応用演習)
11月29日		教養教育8	医学英語9	医学英語10
12月6日		教養教育9	医学英語11	医学英語12
12月13日		教養教育10	臨床統計17	臨床統計18
12月20日		教養教育11	臨床統計19(復習・応用演習)	臨床統計20(復習・応用演習)
12月27日	冬期休暇			
1月3日	冬期休暇			
1月10日	試験期間			
1月17日		教養教育12	臨床統計21	臨床統計22
1月24日		教養教育13	臨床統計23	臨床統計24(復習・応用演習)
1月31日		教養教育14	医学英語13	医学英語14
2月7日		教養教育15	医学英語15	医学英語16
2月14日		教養教育試験	教養教育試験	臨床統計25(補講・再試験)
2月21日	試験期間			
2月28日	試験期間			
3月7日	再試験期間	教養教育再試験	教養教育再試験	教養教育再試験
3月14日	再試験期間			
3月21日	春期休暇			
3月28日	春期休暇			

＊　臨床統計の(復習・応用演習)では試験を行う

授業科目　生命倫理　　授業責任者　吉田雅幸（医）
水口俊介（歯）

（英訳）Bioethics

○目的・到達目標

1)　医師あるいは歯科医師としての視点と倫理観の養成を図る。教養教育で培った文献型倫理学から発展させ、医療プロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考について学習する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の視点と倫理的思考について学習し、自ら考えることでそれを実践する。医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理観を持つことが期待され、それゆえにわが国の医療関連法は性善説で成り立っている。

2)　この講義では、医療倫理、研究倫理の概要を理解した上で、医療や研究の現場で実際に生じている課題を学び、それぞれの場面における医療者の視点と医療者として必要とされる倫理的な思考を身につけることを目標としている。臨床の課題はより現実的に考えることが重要であるため、できる限り当該臨床科目の履修時期にあわせて講義予定を組んでいる。

3)　担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

4)　学生が実際に考えることが重要であるため、可能な限りグループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式を予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

第 2 学年においては、医療者としての視点および倫理観について導入と総論的事項について学習する。第 3 学年および第 4 学年において、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点と対応について学習する。

○科目を履修して得られる能力

別表参照

○学習方法

講義

○教科書・参考書

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。

参考文献は講義のなかで随時紹介する。ただし、以下に挙げる文献については各自で読んでおくこと。

①吉田雅幸・小笹由香編『遺伝診療をとりまく社会–その科学的・倫理的アプローチ』（ブレーン出版、2007 年）

②バーバード・ロウ『医療の倫理ジレンマ―解決への手引き　患者の心を理解するために』（西村書店、2003 年）

○成績評価の方法

筆記試験（MCQ、論述問題）、レポートなどを合わせて 3 年次に総括評価を行う

○担当窓口

氏名	所属・職名	連絡先
吉田　雅幸	生命倫理研究センター・教授	masa.vasc@tmd.ac.jp
藍　真澄	生命倫理研究センター・講師	ai.vasc@tmd.ac.jp
小笹　由香	生命倫理研究センター・講師	yuka.bec@tmd.ac.jp

○ **時間割**

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
7 月 5 日	木	3	吉田雅幸	生命倫理総論（導入）	3 号館 2 階
7 月 12 日	木	3	藍　真澄	医療者の視点と倫理観	

授業科目　臨床統計　　授業責任者　能登　洋（医）
水口俊介（歯）

（英訳）Clinical Statistics

○目的・到達目標

医療・研究において必要とされる統計学の基礎と臨床的意義を学ぶ。基本的な概念や手法や臨床での活用を習得するほか、統計学の思想や数学的原理の理解にも触れる。

○科目を履修して得られる能力

別表参照

○学習方法

講義・演習による

○教科書・参考書

＜教科書＞

能登担当分：　臨床統計はじめの一歩 Q&A　　能登　洋（著）・羊土社　2008 年

徳永担当分：　未定

＜参考書＞

EBM の正しい理解と実践 Q&A　　能登　洋（著）・羊土社　2003 年

日常診療にすぐに使える臨床統計学　第 2 版　　能登　洋（著）・羊土社　2011 年

○成績評価の方法

演習中の試験を主とする。

○担当窓口

氏名	所属	メールアドレス
能登　洋	医学部	noto-tky@umin.net
徳永　伸一	教養部	tokunaga.las@tmd.ac.jp

○ **時間割**

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
5月2日	水	3	能登　洋	統計学と医療（1）　EBM, EBD	3号館2階講義室
5月10日	木	3	能登　洋	統計学と医療（2）　不確実、誤差	
5月24日	木	3	能登　洋	統計学と医療（3）　記述統計、推測統計、観察研究、介入研究	
5月31日	木	3	能登　洋	統計学と医療（4）　相関と回帰[1]	
6月7日	木	3	能登　洋	統計学と医療（5）　相関と回帰[2]	
6月14日	木	3	能登　洋	統計学と医療（6）　検査の特性[1]	
6月21日	木	3	能登　洋	統計学と医療（7）　検査の特性[2]	
6月28日	木	3	能登　洋	復習・応用演習	
11月1日	木	2	徳永　伸一	統計学と医療（8）　事象と確率、ベイズの定理	
11月1日	木	3	徳永　伸一	統計学と医療（9）　確率変数と確率分布	
11月8日	木	2	徳永　伸一	統計学と医療（10）　2項分布と正規分布	
11月8日	木	3	徳永　伸一	統計学と医療（11）　中心極限定理、2項分布の正規近似	
11月15日	木	2	徳永　伸一	統計学と医療（12） 標本分布、標本平均の分布と母平均・母比率の区間推定	
11月15日	木	3	徳永　伸一	統計学と医療（13） 検定の考え方、母平均の検定（1標本）、母比率の検定	
11月22日	木	2	徳永　伸一	復習・応用演習	
11月22日	木	3	徳永　伸一	復習・応用演習	
12月13日	木	2	徳永　伸一	統計学と医療（14）　平均値の差の検定、等分散検定	
12月13日	木	3	徳永　伸一	統計学と医療（15）　適合度検定と独立性の検定	
12月20日	木	2	徳永　伸一	復習・応用演習	
12月20日	木	3	徳永　伸一	復習・応用演習	
1月17日	木	2	能登　洋	統計学と医療（16）治療と予防[1]	
1月17日	木	3	能登　洋	統計学と医療（17）治療と予防[2]	
1月24日	木	2	能登　洋	統計学と医療（18）治療と予防[3]	
1月24日	木	3	能登　洋	復習・応用演習	
2月14日	木	3	能登　洋・ 徳永　伸一	補講・再試験	

授業科目　医学英語　　授業責任者　高田　和生
森尾　郁子

（英訳）English for Medicine

○目的・到達目標

本学は、教育理念の一つに、「国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する」と掲げている。グローバル化が進む昨今、世界の共通言語である英語の運用能力は、医学・歯学研究の最先端におけるコミュニケーションおよび情報発信ツールにとどまらず、国家・地域レベルでの健康向上のために医療をリードし、そして世界標準に沿った質の高い医療・歯科医療を提供するにおいての情報収集・意見交換ツールとして、必要不可欠である。そして、本学の教育理念達成には、単なる言語としての英語力だけではなく、英語力を駆使し世界規模で注目されている医療・健康問題に精通し、さらに国際舞台で意見を述べ、議論を行うに足る資質を備えていなければならない。そこで、本科目においては、英語運用能力の増強にとどまらず、同能力を活かして、世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論でき、さらに医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できることを目標として設定する。

そしてさらに、並行して進む医歯学専門教育、生命倫理教育、臨床統計教育と本科目での学習内容をリンクさせることにより、双方に対しての更なる学習動機づけおよび学習効果向上を図り、21 世紀の医療を担い、リードする医師、歯科医師に共通して必要とされる基盤資質の修得のための学習機会を提供する。

具体的な到達目標を下に記す。

・英語による医学情報（論文やデータベース）を読む能力を持つ
・英語により情報発信を行い、また国際舞台で議論する能力を持つ
・世界共通言語による世界の医療・健康事情の把握とそれによる広い視野を持つ

○科目を履修して得られる能力

別表参照

○学習方法

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得

医歯学専門知識習得ステージに合わせたスケジュールを組み、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業の最初に Vocabulary quiz という形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion

医歯学専門知識修得ステージ／生命倫理および臨床統計学習内容に合わせたトピック・論点を選定し、2 から 4 人ずつの小グループにて議論を行う。毎回 Native speaker(s)を講師兼 Moderator/facilitator として配備する。議論の

プロダクトを、文書または口頭にて発表する機会も用意する。

○教科書・参考書

・　岡田聚、名木田恵理子　著「最新医学用語演習」（南雲堂　1993 年）

○成績評価の方法

最終成績は以下にもとづき判定される。

- Vocabulary quizperformance（20%）
- Comprehension quiz performance (20%)
- Class participation (discussion/presentation) and write-ups（60%）

○受講上の注意

遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。Small group discussion に際しては、あらかじめ配布された資料に記される指示に従い、十分準備しておくこと。

○担当窓口

医歯学融合教育支援センター	高田　和生	takada.rheu@tmd.ac.jp
歯学教育開発学分野	森尾　郁子	imorio.edev@tmd.ac.jp

○時間割

別途提示する。

授業科目　頭頸部・基礎　　授業責任者　秋田恵一（医）
井関祥子（歯）

（英訳）Head and Neck　I

○目的・到達目標

高齢化社会となり、疾病の多様性が認められる日本の医療現場では、口腔内疾患、身体的疾患を総合的に治療する必要がある。そのため、歯学を理解した医師、医学を理解した歯科医師の養成は、社会が求めるものである。医療系総合大学である本学が先進的な医歯学融合教育を実践することで、医科・歯科両学科の学生が将来の基盤となる頭頸部に関する基礎的な知識をともに学び、共有することは肝要である。

2 年次に行われる本ブロックにおいては、頭頸部領域に関する組織学、解剖学、生理学、発生学の講義・実習の多くを医歯共通授業として行う。本ブロックが基礎・専門科目領域における医歯相互の関連を確認する機会となることで、3 年次以降の医歯学融合教育の礎となることを目標とする。

本科目を通じて、以下にあげるような頭頸部領域の基礎医学知識を修得する。

		医学科コアカリ	歯学科コアカリ
①	骨格・軟骨・関節・靭帯・筋 を理解する。	D-4-(1)-1)2)	C-2-3)-(2)-①② E-2-1)-①②
②	脳神経と主要な血管・リンパ管走行 を理解する。	D-2-(1)-③-2)、 D-5-(1)-7)	C-2-3)-(3)-⑤⑥ C-2-3)-(5)-①③ E-2-1)-③④
③	口腔内構造：顎骨および歯，舌，口蓋，唾液腺 を理解する。	D-7-(1)-13)	E-2-2)-①②③⑤ E-3-1②③
④	頭頸部における内分泌腺の位置を理解し、分泌されるホルモンを列挙できる。	D-12-(1)-3)	C-2-3)-(8)-①
⑤	視覚，聴覚，平衡覚，体性感覚，（嗅覚，味覚）の感覚刺激受容の概要を理解する。 *平衡感覚機構を眼球運動姿勢制御と関連させて説明できる。*	D-2-(2)-⑥1)2) *D-13-(1)-2)*　、 D-14-(1)-2)5)6)	C-2-3)-(4)-①②③④
⑥	眼球と付属器の構造と機能、眼球運動を理解する。 *対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能について説明できる。*	D-13-(1)-1)3)*4)*	C-2-3)-(4)-③
⑦	外耳・中耳・内耳の構造 を理解する。	D-14-(1)-1)	C-2-3)-(4)-③
⑧	口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造と神経支配を理解する	D-14-(1)-3)4)	C-2-3)-(6)-① C-2-3)-(7)-① E-2-2)-①②⑤
⑨	咀嚼と嚥下 を理解する	D-7-(1)-14)	E-2-1)-⑧E-2-2)-⑥
⑩	鰓弓・鰓嚢の分化と頭・頸部と顔面・口腔の形成過程 を理解する	C-2-(4)-8)	E-2-3)-①②③⑤
⑪	神経系・感覚器の形成過程を理解する	C-2-(4)-9)	E-2-3)-①②③④

○科目を履修して得られる能力

別表参照

○学習方法

講義・実習

○教科書・参考書

＜組織学＞

標準組織学　総論　第 4 版（2002）、同各論　第 4 版（2010）　藤田・藤田　医学書院

最新カラー組織学（2003）　監訳：石村・井上　西村書店

機能を中心とした図説組織学　第 5 版　（2009）　監訳：山田　医学書院

Ross 組織学（原著第 5 版）（2010）監訳：内村・相磯　南江堂

Bloom&Fawcett：A Textbook of Histology, 12th Ed. (1994), by Fawcett, Chapman & Hall

口腔組織・発生学　脇田稔ら編　医歯薬出版

カラーエッセンシャル口腔組織・発生学　J.Avery 著、高野吉郎　監訳　西村書店

Ten Cate's Oral Histology 6th Ed., Antonio Nanci, Mosby

Oral Anatomy, Embryology and Histology B.K.B.Berkovitz, G.R.Holland, B.J.Moxham, Mosby

＜系統解剖学書＞

Williams et al. ed. Gray's Anatomy (38th ed.) Churchill Livingstone

Gray's Anatomy：The Anatomical Basis Of Clinical Practice (Gray's Anatomy: the Anatomical Basis of Clinical Practice) (39th ed.) Churchill Livingstone

Clemente ed. Gray's Anatomy (30th ed.) Lea & Febiger

分担　解剖学（第 11 版）金原出版

金子丑之助　日本人体解剖学（第 19 版）南山堂

＜局所・臨床解剖学書＞

Gray's Anatomy for Students by Richard Drake et al., Churchill Livingstone

（訳本）グレイ解剖学　原著第 1 版　エルゼビア・ジャパン　塩田浩平・瀬口春道・ほか／訳

Frick 他著　大谷修監訳　人体解剖学ハンドブック　カラー版 1 ・ 2　西村書店

ムーア 坂井達雄訳 臨床解剖学 メディカル･サイエンス･インターナショナル

Snell 山内昭雄訳　臨床解剖学　メディカル・サイエンス・インターナショナル

口腔解剖学　1-5　上條雍彦

歯の解剖学　第 22 版　藤田恒太郎著　桐野忠大、山下靖雄　改訂

口腔解剖学　医歯薬出版　脇田稔、山下靖雄監修

＜アトラス＞

Atlas of Anatomy (Thieme Anatomy), Anne M. Gilroy et al., Thieme Medical Pub、第 1 版

グレイ解剖学アトラス　エルセビア・ジャパン　塩田浩平訳

Clemente 著 A Regional Atlas of the Human Body, 4th ed. Williams & Wilkins

Mcminn et al. 佐藤達夫訳　人体解剖カラーアトラス（第 4 版）南江堂

＜生理学＞

小澤瀞司　他、標準生理学　第 7 版　医学書院 2009

Purves, Neuroscience 4th ed., Sinauer, 2007

Siegel and Sapru, Essential Neuroscience 2nd ed., Lippincott, 2010

＜発生学＞

ラングマン人体発生学　第 10 版　安田峯生・沢野十蔵訳　メディカル･サイエンス･インターナショナル

ラーセン最新人体発生学　学生版　相川英三・山下和雄・三木明徳・大谷浩監訳　西村書店

ムーア人体発生学　瀬口春道・小林俊博・Eva Garcia del Saz 翻訳　医歯薬出版株式会社

Developmental Biology Scott F. Gilbert Sinauer Associates Inc.,U.S.

○成績評価の方法

実習中の個人課題、グループ課題、および、最終日に行われる個人およびグループに対する筆記試験で評価を行う。

○受講上の注意

遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。実習に際しては、あらかじめ配布された手順を十分に予習して臨むこと。

○担当教員

氏名	所属	メールアドレス（@tmd.ac.jp の前）
秋田　恵一	臨床解剖学分野	akita.fana
井関　祥子	分子発生学分野	s.iseki.emb
岸本　誠司	頭頸部外科学分野	kishi.hns
喜多村　健	耳鼻咽喉学分野	kitamura.oto
柴田　俊一	顎顔面解剖学分野	sshibata.mfa
杉内友理子	システム神経生理学分野	ysugiuchi.phy1
杉原　泉	システム神経生理学分野	isugihara.phy1
杉本　太郎	耳鼻咽喉科	sugimoto.oto
泰羅 雅登	認知神経生物学分野	masato.cnb
髙野 吉郎	硬組織構造生物学	takanoy.bss
田中　明子	眼科	tanaka.oph
寺島　達夫	顎顔面解剖学分野	t.terashima.mfa
中田　隆夫	細胞生物学分野	nakata.cbio
山口久美子*	医歯学融合教育支援センター	yamaguchi.fana

*ブロックコーディネーター

○ 時間割

＜医歯共通講義＞

日付	曜日	時限	担当教員	講 義 内 容	講義室
7 月 2 日	月	1,2	秋田 恵一	脳神経概論 1,2	3 号館 2 階講義室
7 月 4 日	水	1,2	井関 祥子	分子発生生物学 1,2	
7 月 6 日	金	1,2	柴田 俊一	歯の総論 1,2	
7 月 9 日	月	1,2	髙野 吉郎	組織学（口腔）1,2	
7 月 13 日	金	1	杉内友理子	感覚器の生理 1 平衡覚	
7 月 13 日	金	2	杉本太郎	頭頸部の臨床 1	
7 月 18 日	水	1	泰羅 雅登	感覚器の生理 2 体性感覚・嗅覚・味覚	
7 月 18 日	水	2	岸本誠司	頭頸部の臨床 2	
7 月 20 日	金	1,2	井関 祥子	分子発生生物学 3,4	
7 月 23 日	月	1	杉原 泉	感覚器の生理 3 聴覚	
7 月 23 日	月	2	喜多村健	頭頸部の臨床 3	
7 月 25 日	水	1	泰羅 雅登	感覚器の生理 4 視覚	
7 月 25 日	水	2	田中明子	頭頸部の臨床 4	
7 月 27 日	金	1,2	全教員	試験	

＜医歯共通実習＞

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
7 月 11 日	水	1,2	髙野 吉郎 中田 隆夫	頭頸部基礎 組織実習 口腔 1,2	3 号館 2 階 講義室
7 月 11 日	水	3,4	秋田恵一	頭頸部基礎 解剖実習 3,4	解剖実習室
7 月 12 日	木	3,4	柴田俊一	頭頸部基礎 解剖実習 5,6	
7 月 13 日	金	3,4		頭頸部基礎 解剖実習 7,8	
7 月 17 日	火	3,4		頭頸部基礎 解剖実習 9,10	
7 月 18 日	水	3,4		頭頸部基礎 解剖実習 11,12	
7 月 19 日	木	3,4		頭頸部基礎 解剖実習 13,14	
7 月 20 日	金	3,4		頭頸部基礎 解剖実習 15,16	
7 月 23 日	月	3,4		頭頸部基礎 解剖実習 17,18	
7 月 24 日	火	3,4		頭頸部基礎 解剖実習 19,20	
7 月 25 日	水	3,4		頭頸部基礎 解剖実習 21,22	
7 月 26 日	木	3,4		頭頸部基礎 解剖実習 23,24	
7 月 27 日	金	3,4		頭頸部基礎 解剖実習 25,26	

＜医学科のみ講義：医学科シラバス組織学および人体解剖学の項を参照＞

日付	曜日	時限		担当教員	講義内容
4 月 17 日	月	3	12:50～14:10	秋田　恵一	頭頸部の解剖 1
5 月 23 日	火	3	12:50～14:10	秋田　恵一	頭頸部の解剖 2
5 月 29 日	火	3	12:50～14:10	秋田　恵一	頭頸部の解剖 3
5 月 30 日	水	3	12:50～14:10	秋田　恵一	頭頸部の解剖 4
6 月 1 日	金	3	12:50～14:10	秋田　恵一	頭頸部の解剖 5
6 月 5 日	火	3	12:50～14:10	秋田　恵一	頭頸部の解剖 6
6 月 6 日	水	3	12:50～14:10	秋田　恵一	頭頸部の解剖 7
6 月 13 日	水	2	10:30～11:50	秋田　恵一	頭頸部の解剖 8
6 月 13 日	水	3	12:50～14:10	中田　隆夫	眼の組織学
6 月 15 日	金	2	10:30～11:50	秋田　恵一	頭頸部の解剖 9
6 月 15 日	金	3	12:50～14:10	中田　隆夫	耳の組織学
6 月 19 日	火	2	10:30～11:50	秋田　恵一	頭頸部の解剖 10
7 月 3 日	火	2	10:30～11:50	秋田　恵一	頭頸部の解剖 11

＜医学科のみの実習：医学科シラバス組織学の項を参照＞

日付	曜日	時限		担当教員	講義内容
6 月 13 日	水	4,5	14:20～17:10	中田　隆夫	頭頸部基礎　組織実習　眼 1,2
6 月 15 日	金	4,5	14:20～17:10		頭頸部基礎　組織実習　耳 1,2

＜補足資料：医歯合同解剖実習期間中の時間割（医学科）＞

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/29 金	*組織学実習　42*	*組織学実習　43*	人体解剖学実習 8	人体解剖学実習 9	人体解剖学実習 10
7/ 2 月	頭頸部基礎 13	頭頸部基礎 14	人体解剖学実習 11	人体解剖学実習 12	人体解剖学実習 13
7/ 3 火	*頭頸部基礎 15*	*人体解剖学実習 14*	人体解剖学実習 15	人体解剖学実習 16	人体解剖学実習 17
7/ 4 水	頭頸部基礎 16	頭頸部基礎 17	人体解剖学実習 18	人体解剖学実習 19	人体解剖学実習 20
7/ 5 木	教養／医歯学基盤教育 12		人体解剖学実習 21	人体解剖学実習 22	人体解剖学実習 23
7/ 6 金	頭頸部基礎 18	頭頸部基礎 19	人体解剖学実習 24	人体解剖学実習 25	人体解剖学実習 26
7/ 9 月	頭頸部基礎 20	頭頸部基礎 21	人体解剖学実習 27	人体解剖学実習 28	人体解剖学実習 29
7/10 火	*人体解剖学実習 30*	*人体解剖学実習 31*	人体解剖学実習 32	人体解剖学実習 33	人体解剖学実習 34
7/11 水	頭頸部基礎実習 5	頭頸部基礎実習 6	頭頸部基礎実習 7	頭頸部基礎実習 8	人体解剖学実習 35
7/12 木	教養／医歯学基盤教育 13		頭頸部基礎実習 9	頭頸部基礎実習 10	人体解剖学実習 36
7/13 金	頭頸部基礎 22	頭頸部基礎 23	頭頸部基礎実習 11	頭頸部基礎実習 12	人体解剖学実習 37
7/16 月	（祝）海の日				
7/17 火	*人体解剖学実習 38*	*人体解剖学実習 39*	頭頸部基礎実習 13	頭頸部基礎実習 14	人体解剖学実習 40
7/18 水	頭頸部基礎 24	頭頸部基礎 25	頭頸部基礎実習 15	頭頸部基礎実習 16	人体解剖学実習 41
7/19 木	教養／医歯学基盤教育 14		頭頸部基礎実習 17	頭頸部基礎実習 18	人体解剖学実習 42
7/20 金	頭頸部基礎 26	頭頸部基礎 27	頭頸部基礎実習 19	頭頸部基礎実習 20	人体解剖学実習 43
7/23 月	頭頸部基礎 28	頭頸部基礎 29	頭頸部基礎実習 21	頭頸部基礎実習 22	人体解剖学実習 44
7/24 火	*人体解剖学実習 45*	*人体解剖学実習 46*	頭頸部基礎実習 23	頭頸部基礎実習 24	人体解剖学実習 47
7/25 水	頭頸部基礎 30	頭頸部基礎 31	頭頸部基礎実習 25	頭頸部基礎実習 26	人体解剖学実習 48
7/26 木	教養／医歯学基盤教育 15		頭頸部基礎実習 27	頭頸部基礎実習 28	人体解剖学実習 49
7/27 金	頭頸部基礎 32	頭頸部基礎 33	頭頸部基礎実習 29	頭頸部基礎実習 30	人体解剖学実習 50

○　斜体で記された部分は医学科のみの講義・実習

○　17:10 以降も実習が延長する場合がある

＜歯学科のみ講義＞

日付	曜日	時限		担当教員	講義内容
6 月 13 日	水	4	12:50～13:40	髙野 吉郎	眼の組織学
6 月 15 日	金	4	12:50～13:40	髙野 吉郎	耳の組織学
6 月 20 日	水	1-3	9:00～11:50	寺島 達夫	頭頸部の解剖 Ⅰ（1-3）
6 月 25 日	月	4,5	12:50～14:40	寺島 達夫	頭頸部の解剖 Ⅱ（4,5）
6 月 26 日	火	4-6	12:50～15:40	柴田 俊一	頭頸部の解剖 Ⅲ（6-8）
6 月 27 日	水	3	11:00～11:50	柴田 俊一	頭頸部の解剖 Ⅳ（9）
6 月 28 日	木	4-6	12:50-15:40	寺島 達夫	頭頸部の解剖 Ⅴ（10-12）
9 月 18 日	火	4-6	12:50-15:40	柴田 俊一	頭頸部の解剖 Ⅵ（13-15）

＜歯学科のみの実習＞

日付	曜日	時限		担当教員	講義内容
6 月 13 日	水	5,6	13:50-15:40	髙野 吉郎	頭頸部基礎 組織実習 眼 1,2
6 月 15 日	金	5,6	13:50-15:40		頭頸部基礎 組織実習 耳 1,2

＜補足資料：医歯合同解剖実習期間中の時間割（歯学科）＞

日付	9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/29 金	*講義* *講義* *講義*		人体解剖学実習	人体解剖学実習	
7/ 2 月	頭頸部基礎 13	頭頸部基礎 14	人体解剖学実習	人体解剖学実習	
7/ 3 火	*連携教育*		人体解剖学実習	人体解剖学実習	
7/ 4 水	頭頸部基礎 16	頭頸部基礎 17	人体解剖学実習	人体解剖学実習	
7/ 5 木	教養／医歯学基盤教育 12		人体解剖学実習	人体解剖学実習	
7/ 6 金	頭頸部基礎 18	頭頸部基礎 19	人体解剖学実習	人体解剖学実習	
7/ 9 月	頭頸部基礎 20	頭頸部基礎 21	人体解剖学実習	人体解剖学実習	
7/10 火	*連携教育*		人体解剖学実習	人体解剖学実習	
7/11 水	頭頸部基礎実習 5	頭頸部基礎実習 6	頭頸部基礎実習 7	頭頸部基礎実習 8	
7/12 木	教養／医歯学基盤教育 13		頭頸部基礎実習 9	頭頸部基礎実習 10	
7/13 金	頭頸部基礎 22	頭頸部基礎 23	頭頸部基礎実習 11	頭頸部基礎実習 12	
7/16 月	（祝）海の日				
7/17 火	*連携教育*		頭頸部基礎実習 13	頭頸部基礎実習 14	
7/18 水	頭頸部基礎 24	頭頸部基礎 25	頭頸部基礎実習 15	頭頸部基礎実習 16	
7/19 木	教養／医歯学基盤教育 14		頭頸部基礎実習 17	頭頸部基礎実習 18	
7/20 金	頭頸部基礎 26	頭頸部基礎 27	頭頸部基礎実習 19	頭頸部基礎実習 20	
7/23 月	頭頸部基礎 28	頭頸部基礎 29	頭頸部基礎実習 21	頭頸部基礎実習 22	
7/24 火	*連携教育*		頭頸部基礎実習 23	頭頸部基礎実習 24	
7/25 水	頭頸部基礎 30	頭頸部基礎 31	頭頸部基礎実習 25	頭頸部基礎実習 26	
7/26 木	教養／医歯学基盤教育 15		頭頸部基礎実習 27	頭頸部基礎実習 28	
7/27 金	頭頸部基礎 32	頭頸部基礎 33	頭頸部基礎実習 29	頭頸部基礎実習 30	

○ 斜体で記された部分は歯学科のみの講義・実習

○ 15:40 以降も実習が延長する場合がある

別表　科目を履修して得られる能力
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	レベル	細　目	学習方法	レベル	細　目	学習方法	基盤教育（第2・3学年） 生命倫理	臨床統計	医学英語	頭頸部・基礎
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	B	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	講義				B	B	B	B
	国際言語（英語）の運用力	B	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	講義				B	B	B	B
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	A	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	講義							A
		C	基礎的および臨床的研究の倫理的事項を説明できる	講義・実習				C			
		B	臨床的あるいは科学的問題提起ができる	講義・実習				B	B	B	B
		B	実習実験を実施して結果を得ることができる	講義・実習							B
		B	実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる	講義・実習							B
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	A	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	講義・実習				A	A	A	A
	患者との関係、職務上の優先性	C	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる	講義・実習				C			
		A	個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	講義・実習				A	A	A	A
		A	自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	講義・実習							A
	勤労習慣	A	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	講義・実習				A	A	A	A
		A	文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	講義・実習				A	A	A	A
	法規、機関内規、専門職社会内規範	A	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	講義・実習				A	A	A	A
	倫理	A	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	講義・実習	B	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している	講義	B			A
		A	他者への良識を逸する振舞い（無礼、短期など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	講義・実習				A	A	A	A
		B	守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる	講義・実習				B		B	
		C	インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる	講義・実習				C			
		A	記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	講義・実習	B	著作権侵害にあたる行動を列挙できる	講義	BA	A	A	A
		B	利益相反および回避するための行動を説明できる	講義・実習				B		B	
		B	企業との関係における倫理的な側面につき説明できる	講義・実習				B		B	
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	A	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	講義・実習				A	A	A	A
		A	自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	講義・実習				A	A	A	A
		A	他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	講義・実習				A	A	A	A
		A	ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	講義・実習				A	A	A	A

別表　科目を履修して得られる能力
医学科コンピテンシーより

								基盤教育（第2・3学年）			頭頸部・基礎
								生命倫理	臨床統計	医学英語	
コミュニケーション	医療チーム内／間コミュニケーション	C	多学科チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる	講義・実習				C	C	C	C
	患者および家族とのコミュニケーション	B	患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる	講義・実習				B		B	
		B	重大で繊細な難しいトピック（sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど）について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる	講義・実習				B		B	
		C	患者中心の医療について説明できる	講義・実習				C		C	
知識とその応用	医学知識（基礎）	B	疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる	講義・実習							B
	医療と社会	B	世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる	講義						B	
	歯科医学関連知識	C	顎・口腔領域の構造と機能を説明できる	講義					C		
診療の実践	EBM/臨床推論	B	情報技術を利用し、関連する情報源/エビデンスを発見できる	講義					B		
		A	臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	講義	B	臨床上の問題を明確化できる	講義		BA		
		A	臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	講義	B	研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる	講義	B	BA		
		B	医学的介入（予防/治療）に関するエビデンス吟味に用いられる用語(NNT, NNHなど)を説明できる	講義					BA		
		B	仮想症例の臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	講義	C	入手したエビデンスのレベルを正確に説明できる	講義		CB		
		B	診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる	講義					B		
		A	適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	講義	B	診断に関するエビデンス吟味に用いられる用語(感度、特異度、尤度比など)を説明できる	講義		BA		
様々な制度・資源を考慮した診療	医療・福祉制度の理解と応用	B	医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる	講義				B			
		S	費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる	講義					(S)		

教養教育

<table>
<tr><th>月日</th><th>曜日</th><th>1時限（9:00– 9:50）</th><th>2時限（10:00–10:50）</th><th>4時限（12:50～14:20）</th><th>5時限（14:30～16:00）</th></tr>
<tr><td>4月19日</td><td>木</td><td rowspan="9">生命科学基礎
（生物学）
（医学科・歯学科2年生対象）
（服部・伊藤）</td><td rowspan="9">主題別選択Ⅰ（前半）
（医学科・歯学科2年生対象）
（教養部教員）</td><td rowspan="3">生命科学（人体の生物学）
（歯学科2年生対象）
（伊藤）

（7号館第1講義室）</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>4月26日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>5月2日</td><td>水</td></tr>
<tr><td>5月10日</td><td>木</td><td rowspan="8"></td><td rowspan="8"></td></tr>
<tr><td>5月17日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>5月24日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>5月31日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>6月7日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>6月14日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>6月21日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>6月28日</td><td>木</td><td rowspan="5">生命科学基礎（化学）
（医学科・歯学科2年生対象）
（奈良・澤野）

（大学院講義室4及び2階医学科講義室）</td><td rowspan="5">主題別選択Ⅰ（後半）
（医学科・歯学科2年生対象）
（教養部教員）

（講義室等希望場所：別紙）</td></tr>
<tr><td>7月5日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>7月12日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>7月19日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>7月26日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>10月4日</td><td>木</td><td rowspan="5">生命科学基礎（化学）
（医学科・歯学科2年生対象）
（奈良・澤野）</td></tr>
<tr><td>10月11日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>10月25日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>11月1日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>11月8日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>11月15日</td><td>木</td><td rowspan="5">生命科学基礎
（物理学）
（医学科・歯学科2年生対象）
（千葉・越野）

（大学院講義室4及び2階医学科講義室）</td><td rowspan="5">情報科学演習
（歯学科2年生対象）
（中口）

（図書館情報検索室）</td></tr>
<tr><td>11月22日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>11月29日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>12月6日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>12月13日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>12月20日</td><td>木</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1月10日</td><td>木</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1月17日</td><td>木</td><td rowspan="3">生命科学基礎
（物理学）
（千葉・越野）

（大学院講義室4及び2階医学科講義室）</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">情報科学演習
（歯学科2年生対象）

（図書館情報検索室）</td></tr>
<tr><td>1月24日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>1月31日</td><td>木</td></tr>
<tr><td>2月7日</td><td>木</td><td></td><td></td></tr>
</table>

※10月18日：解剖体慰霊式
※1月10日：医学科試験期間

教 養 教 育

世界に通用する医療人になるためには、専門教育で獲得する知と技に加えて、さまざまな文化や多様な世界を理解できる教養と、他者を理解するための人間としての力が求められています。教養部では、そのためには、教養教育と、専門教育を学ぶための基礎教育を並行して行うことが必要だと考えています。

1年次には国府台キャンパスで、自然科学や人文社会科学の基本的な考え方を学ぶとともに基礎学力の充実を図りました。2年次と3年次には湯島キャンパスで、専門教育と密接にかかわる自然科学の分野を「生命科学基礎」として学びます。さらに、自然科学、人文社会科学、語学について複合的に学ぶことをとおして、自己問題提起・解決型の創造力を身につけることを目的とした、「主題別選択Ⅰ・Ⅱ」と「主題別人文社会科学セミナー」の授業が行われます。

科目概要

１）生命科学基礎（生物学・化学・物理学）

1年次の学習だけでは不十分であった生物学、化学、物理学の内容を補うとともに、生命科学に関係するトピックも取り上げ、医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学ぶことで、基礎学力のさらなる充実を図り、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。

２）主題別選択Ⅰ・Ⅱ

「人間」という存在について、人間を生物的社会的存在たらしめている要素である「文化」「生命」「言語」「制度」「時間」という5つの視点の中から各自が1つの視点を選択し、その視点から「人間」を考えてみる授業です。3年次に行われる「主題別人文社会科学セミナー」へ向け、視野を広げ、基礎的な知識や考え方を身につけることを目的としています。

３）主題別人文社会科学セミナー

各主題に別れて、担当者の指導のもと、自ら問題を設定し、調査・考察・討論を経て、一定の結論を導きます。自分が選択した主題の観点を中心に、「人間」という存在について、自分の考えを持つことが期待されています。

科　目　名 （英　訳）	生命科学基礎 Basic Life Science	開講学期 曜日・時限	通年 木曜日１時限　(9:00-9:50)
対象学年	２年生	単位数	２単位
受講資格	医学科・歯学科	募集人数	
担当教員	生物学：服部淳彦、伊藤正則　化学：奈良雅之、澤野頼子　物理学：千葉　司、越野和樹		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

１年次の学習だけでは不十分な生物学、化学、物理学の分野を補うとともに、生命科学に関係するトピックを取り上げることにより、専門教育の土台となる科学的な基礎体力を養います。授業は講義形式で行います。

●授業の目的　(Primary goal)

医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学習することにより、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。

●到達目標　(Objectives)

生命科学の土台となる生物学、化学、物理学について、必要に応じて自学自習で理解を深めることができる。
授業で取り扱った各項目に関するテキストあるいは演習問題を自学自習で理解することができる。

●授業計画　(Schedule)　第１回～第15回　前期　第16回～第30回　後期

第１回～第10回　生物学　(時間生物学)
第11回～第20回　化学（生体高分子論、化学反応速度論）
第21回～第30回　物理学　(振動・波動)

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

評価は、生物学、化学、物理学の総合評価で行う。
前期の定期試験では、生物学と化学（の前半）、後期の定期試験では化学（の後半）と物理学について行う。試験のいずれか１つでも受験を放棄した場合、履修放棄とみなす。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

(生物学)
・教科書　「時間生物学の基礎」富岡憲治、沼田英治、井上慎一共著　(裳華房)

(化学)
・教科書　「数学いらずの化学反応論」齋藤勝裕著　(化学同人)
「生体分子化学　第2版」秋久俊博、長田洋子編（共立出版）
・参考書　「アトキンス　生命科学のための物理化学」　稲葉章、中川敦史訳　東京化学同人
「マクマリー　有機化学（下）第７版」伊東椒ら訳（東京化学同人）

(物理学)
〈物理学ａ：千葉〉
・教科書「基礎物理学シリーズ　波動」川村清著（東京教学社）
〈物理学ｂ：越野〉
・参考書「基礎物理学コースⅠ」江幡武・内田和喜男・坪田博明著（学術図書）

主題別教育（医学科・歯学科）について

【目的】

人間とは何か。これまで、偉大な先人達が、「人間」の解明にあらゆる観点からいどみ、説明を試みてきました。それらは、「知」として蓄積され、私たちをさらなる思索へと導いてくれます。

あらゆる学問は、この人間について思索をめぐらせ、理論化しようとするところから始まったといってもよいでしょう。人間とは甚だ不可思議な、得体の知れない存在です。私たちは、このよく分からない人間として、よく分からない人間が構築する世界で、よく分からない人間と一緒に生きていかねばなりません。人間をめぐる思索は、自分自身の姿、あるいは自分たちが生きる世界の構造を明らかにしようとする営みにほかならず、人間として生きていく上での必然的行為であり、人間の宿命であるともいえます。

主題別教育は、この「人間」という存在について、人間を生物的社会的存在たらしめている要素である「文化」「生命」「言語」「制度」「時間」という５つの視点から考えてみようという取り組みです。

ゴールは、3 年次に行う「主題別人文社会科学セミナー」です。このセミナーでは、各主題に分かれて、担当者の指導のもと、自ら問題を設定し、調査・考察・討論を経て、一定の結論を導出します。1 年次および 2 年次には、その準備として、視野を広げ、基礎的な知識や考え方を身につけます。

セミナー修了時には、みなさんは、自分が選択した主題の観点を中心に、「人間」という存在について、自分なりの考えを持つことになるでしょう。もちろん、それは「絶対的な正解」ではありません。しかし、各自が、3 年間かけてたどりついた一つの「結論」です。

そして、この「結論」は、さらなる「新たな問い」を生みだし、「思索」を促し、「新たな結論」へとみなさんを導くでしょう。この、「問い」から「結論」へ、そして「新たな問い」へという、とどまるところを知らない学問のダイナミズムを体験すること、そして、自ら思索する力強さを身につけること、これが主題別教育の目的です。

ここでの取り組みは、将来、「人間」そのものを対象とすることになる医学・歯学系の皆さんを支える、大きな力となるはずです。

【５つの主題】

文化と人間　　生命と人間　　言語と人間　　制度と人間　　時間と人間

各主題の目的は次の通りです。

文化と人間	文化とは、人間が創造し習得する精神的な価値の総体である。また、文化とは象徴的記号の体系である。そのような文化を理解することによって、人間の本質を捉えようとすることが目的である。
生命と人間	人間を含むあらゆる生物には生命が宿っている。医療はその生命と常に向き合わなければならない。その生命の多様な現象と、それに対する人間の様々な認識のありようを理解することが目的である。
言語と人間	人間と動物とを区別する最大の要素は言語の使用にある。人間は言語によって、自らの世界を構築してきた。その言語に関する様々な事象を理解することによって、人間の本質を捉えようとすることが目的である。
制度と人間	社会的生物である人間は、様々な制度に取り巻かれて生きている。その制度を相対的に理解することと、制度の構造を分析することによって、人間のありようを理解することが目的である。
時間と人間	人間は時間的存在であり、時間的拘束のもとに生きている。時間を相対的に理解し、その構造を明らかにすることによって、人間存在の本質を理解することが目的である。

上の５つの主題の中から、１つ選択します。各主題とも、定員は約３０名です。

３年次の「主題別人文社会科学セミナー」は、この主題に分かれて開講されます。各セミナーは、１年次の人文社会科学科目の「主題に関連の深い科目」の担当者が担当する予定です（この１年次人文社会科学の「主題に関連の深い科目」については、次の【各学年の履修について】で説明します)。

どの主題に進むかを決定する時期は、２年進級時です。１年生の２月に「希望調査」を取り、希望を考慮しながら、各主題とも約３０名になるように振り分けます。

１年生の間に、色々な科目を履修しながら、自分がどの主題を選択するかを考えておいて下さい。

【各学年の履修について】

１年生：基盤の形成

必修科目・必修選択科目・自由選択科目などで、さまざまな分野の科目が開講されています。それらに取り組むことにより、それぞれの学問分野における基礎的な知識や、科学的な思考方法を身につけます。

同時に、人間に関する根源的な問いに対して、これまで人間自身がどのようにアプローチし、どのように理論化してきたのかということを学びます。そして、「問いの継続と発展」という学問のありようを理解します。

１年生は、このように３年生のセミナーに向けて基礎体力を養いながら、自分がどの主題に進むかを考える期間です。

特に、人文社会科学科目には、「主題に関連の深い科目」は設けられています（下表)。自分が進むかもしれないと思う主題については、その「主題に関連の深い科目」の中にある科目を、積極的に履修しておくことをお勧めします。

主題に関連の深い科目は次の通りです。各授業の内容については、それぞれのシラバスを参照して下さい。

主題	関連の深い科目
文化と人間	文化人類学Ⅰ、文化人類学Ⅱ、民俗学Ⅱ、社会学ＡⅠ
生命と人間	哲学Ⅰ、哲学Ⅱ、倫理学Ⅰ、倫理学Ⅱ
言語と人間	文学ＡⅠ、文学ＡⅡ、文学ＢⅠ、文学ＢⅡ
時間と人間	歴史学ＢⅠ、歴史学ＢⅡ、社会思想史Ⅰ、社会思想史Ⅱ
制度と人間	政治学Ⅰ、政治学Ⅱ、法学Ⅰ、法学Ⅱ

２・３年生前期：主題別選択科目―視点の拡充―

２・３年生では、前期の木曜日午前中に、「主題別選択科目」が開講されます。

「主題別選択科目」とは、主題について考察できる、様々な学問分野にまたがった複合的な内容の選択科目です。各科目とも、５０分間の授業が７回行われます。２年生と３年生が合同で受講します。具体的には、各主題において、下表のような科目が開講されます。開講科目は、若干の変更の可能性があります。

自分が選択した主題の「主題別選択科目」の中から、２年前期の前半７回、前期の後半７回、３年前期の前半７回、前期の後半７回にそれぞれ１科目ずつ履修します。前半７回と後半７回、合計２科目を履修して、１単位取得となります。

また、３年次に行われる主題別人文社会科学セミナーの担当者から、２年生の間にやっておくべき課題が提示される場合があります。２年生は、「主題別選択科目」を受講し、同時にその課題に取り組みながら、主題に関する視点の拡充をめざします。

３年生：主題別人文社会科学セミナー―思考の深化―

３年生では、主題ごとに、セミナーを受講します。

各主題の学生３０人を、１０人ずつのグループＡ・Ｂ・Ｃに分けます。セミナーは、このグループごとに、７回ずつ行われます。セミナーを担当する教員は、１年次人文社会科学の「主題に関連の深い科目」担当教員の予定です。

セミナーと平行して、「医療と法」および「医療と社会」という二つの講義科目が７回ずつ開講されます。グループごとに「セミナー」「医療と法」「医療と社会」を７回ずつ受講します。そして、学年の最後に開講される「総括セミナー」において、主題に関する自らの取り組みをレポートにまとめます。「総括セミナー」は、主題ごとに３０人全員が参加し、討論を経てレポート執筆に取り組みます。

グループ（各１０人）	前　期		後　期	
	前半７回	後半７回	前半７回	後半７回
グループＡ	セミナー	医療と社会	医療と法	総括セミナー（レポート執筆）
グループＢ	医療と法	セミナー	医療と社会	
グループＣ	医療と社会	医療と法	セミナー	

１年生において基礎力を身に付け、自ら問いを見出す意識を養い、２年生「主題別選択科目」において視野を広げてきました。３年生「主題別人文社会科学セミナー」では、それらを前提にして、問題を設定し結論の導出を目指します。

問題設定は、自らの興味や関心にもとづいて、担当教員のアドバイスを受けながら、学生それぞれが設定します。その問題について、調査や考察を行い、またその結果を他の受講生と共有して、問題点を指摘しあいながら結論を導き出すのが「セミナー」です。そして、これらを集大成するのが、「総括セミナー（レポート執筆）」です。

「総括セミナー（レポート執筆）」、ここがこの主題別教育のゴール地点となります。

【予定】

2012 年度

２年生　４月　「主題別選択Ⅰ」受講

～９月

３月　「主題別人文社会科学セミナー」履修の説明

2013 年度

３年生　４月　「主題別選択Ⅱ」受講

～９月

３年生　４月　「主題別人文社会科学セミナー」受講

～３月

【成績・評価について】

主題別選択Ⅰ・Ⅱ　　前半と後半を合わせてそれぞれ１単位。

原則としてレポート（80 点）、平常点（20 点）で評価する。

ただし、レポートの代替として、授業の最終日に試験を実施することがある。

科　目　名 （英訳）	語り（ナラティヴ）の構造 （Ｎａｒｒａｔｉｖｅ）	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日2時限（10:00～10:50） 前半
担当教員	土佐朋子	募集人数	３０

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

人間は、自らを存在させるために「語り」を必要とする生き物である。本授業では、文学作品を題材として、「語り」の構造について分析する。文学作品を成立させる要素の一つが「語り手」である。「作者」が文学作品の外部に位置し、作品そのものと対等に存在するのに対して、「語り手」は作品内部に位置し、作品世界を進行させる存在である。「作者」と「語り手」とは異なる存在であり、その距離が「語り」の中で変化する。したがって、両者の距離と「語り」の人称とは一致しない。

この「語り手」の視点から、文学作品を分析し、「語り」がどのような構造を持って成立しているのかを考察するのが、本授業の内容である。授業の形式は、講義を基本とするが、文学作品を題材とするため、受講生は事前にそれを読んでおくことが必要である。作品は、近代以降の短編を予定している。

●授業計画　(Schedule)

第１回　　人間と「語り」
第２・３回　作品①に関する分析
第４・５回　作品②に関する分析
第６・７回　作品③に関する分析とまとめ

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：題材とする作品（教場で配布予定）
参考書：教場でその都度提示する。

科　目　名 （英訳）	言語表現と時間認識 (The theory of Time in Narrative)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日2時限（10:00～10:50） 後半
担当教員	土佐朋子	募集人数	３０

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

文学は時間芸術であるといわれるように、作品世界は時間の推移とともに展開してゆく。ストーリー展開は、常に時間の進行とともにあるといってもよい。ところが、作品内部の言語表現を細かに見ると、時間はいつも一定方向に流れているわけではない。逆行、寸断、スローモーション、省略、短縮など、時間の流れはさまざまに姿を変える。文学作品において、時間は編集されているといってよい。

この「時間」という観点から文学作品を分析し、人間の言語表現において時間がどのように編集されるのかということを考察するのが、本授業の内容である。形式は講義を基本とするが、文学作品を題材とするため、受講生は事前にそれを読んでおくことが必要である。作品は、近代以降の短編を予定している。

●授業計画　(Schedule)

第１回　　語りと「時間」
第２・３回　作品①に関する分析
第４・５回　作品②に関する分析
第６・７回　作品③に関する分析とまとめ

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：題材とする作品（教場で配布予定）
参考書：教場でその都度提示する。

科　目　名 （英訳）	医療といのちの歴史学	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日2時限（10:00～10:50） 前半
担当教員	藤井達夫	募集人数	30名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この授業では、日常の生活の中で、人間たちが生命や健康、病、そして死をどのように表象し、受容してきたのかを歴史的な視点から検討したいと思います。これは、健康や病、死の問題を、人間の文化という文脈で捉え、その変遷を理解しようとする試みだと言えるでしょう。かつて医学史家のヘンリー・シゲリストは「医学は文化全体に密接に結びついたものであり、時代の思想の変化に伴って、医学の考え方もすべて変化する」と言いました。この言葉を手掛かりに、未来の医療者としてのみならず、現代社会の一員として、生命や死の問題を深く掘り下げるための視座を培うことを目指します。

●授業計画　(Schedule)

第一回　科学としての医学と文化の関係……ジョルジュ・カンギレムの議論を手掛かりに
第二回　西洋における生命と死の歴史①……古代ギリシアを中心に
第三回　西洋における生命と死の歴史②……中世から一八世紀まで
第四回　西洋における生命と死の歴史③……一九世紀以後
第五回　日本における生命と死の歴史
第六回～七回　現代における生命と死の問題……優生学からエンハンスメントの時代へ

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

ジョルジュ・カンギレム『正常と病理』、ミシェル・フーコー『臨床医学の誕生』、
フィリップ・アリエス『死と歴史』、Roy Porter, *The Greatest Benefit to Mankind.*
Nikolas Rose, *The Politics of Life Itself.*
Zygmunt Bauman, *Mortality, Immortality and Other Life Strategies.*

科　目　名 （英訳）	医療といのちの倫理学	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日2時限（10:00～10:50） 後半
担当教員	藤井達夫	募集人数	30名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

倫理学的な思考は、日常生活における物の考え方と少なからず異なります。これは、カントが「義務」という概念で力説したところです。ここから、倫理学的な思考を活用する仕方を身につける必要が出てきます。そこで、この授業では、現代社会が抱える生命や死をめぐる問題のいくつかを取り上げ、一年次に学んだ倫理学の視座からそれらについて「熟議」したいと思います。

この「熟議(deliberation)」はあまり聞きなれない言葉かもしれません。それは意見を異にする他者たちと議論し、自らの当初の意見が変容するほどまで熟考する行為を意味します。したがって、この授業では、講義された内容について受講者の間で議論し、自らの意見を再検討してもらいます。この熟議をとおして、倫理学的思考や倫理学の基礎概念を自由に使いこなせるようになることを目指します。また、各受講生には、その成果をレポートとして提出してもらう予定(三回)です。

●授業計画　(Schedule)

第一回～第二回　医療格差が提起する倫理的問題＋熟議
第三回～第四回　QOLと優生学＋熟議
第五回～第六回　エンハンスメントが提起する倫理的問題＋熟議
第七回　まとめ……倫理学的思考と倫理学の基礎概念

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

マイケル・サンデル『完全な人間を目指さなくてもよい理由』　米山公啓『医療格差の時代』
色平哲郎・山岡淳一郎『命に値段のつく日』　湯浅誠『反貧困』　米本昌平その他『優生学と人間社会』
Nikolas Rose, *The Politics of Life Itself.*

科　目　名 (英訳)	文化・言語・笑い	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00-10:50） 前半
担当教員	板橋作美	募集人数	50名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

文化を獲得して、はじめて人間は、単なる動物としてのホモ・サピエンスではない、真の人間になります。この授業は、その「文化」について考えるものであり、教養科目の文化人類学Ｉで論じたことを、さらに深めるものです。

ここで考える文化は、文化住宅や文化包丁の文化ではもちろんなく、文化の日の文化でもなく、またパソコンや自動車などの物ではなく、芸術や思想などでもなく、もっと根元的な次元での文化です。すなわち、人間が世界（ありとあらゆるもの、こと）をとらえるために作り上げている、比喩的に言えば、混沌カオスを秩序コスモスに変換するための装置、デバイス・ソフトです。

その文化で大きな位置を占め、重要な働きをするもの、または文化そのものであるのが、言語であり、言語の仕組みは、いわゆる人間的なことに深くかかわっていると考えられます。すなわち、遊び、笑い、狂気、迷信、芸術、発見（ひらめき）などなどです。

この授業は、そのような文化の仕組みについて、特に笑い、言葉遊びに焦点を当てて講義します。

●授業計画　(Schedule)

１　文化とは
２，３　言語と比喩
４，５　落語とだじゃれ
６，７　言葉遊び

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書はありません。参考書は授業中に紹介します。

科　目　名 (英訳)	文化・言語・狂気	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00-10:50） 後半
担当教員	板橋作美	募集人数	50名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

文化を獲得して、はじめて人間は、単なる動物としてのホモ・サピエンスではない、真の人間になります。この授業は、その「文化」について考えるものであり、教養科目の文化人類学Ｉで論じたことを、さらに深めるものです。

ここで考える文化は、文化住宅や文化包丁の文化ではもちろんなく、文化の日の文化でもなく、またパソコンや自動車などの物ではなく、芸術や思想などでもなく、もっと根元的な次元での文化です。すなわち、人間が世界（ありとあらゆるもの、こと）をとらえるために作り上げている、比喩的に言えば、混沌カオスを秩序コスモスに変換するための装置、デバイス・ソフトです。

その文化で大きな位置を占め、重要な働きをするもの、または文化そのものであるのが、言語であり、言語の仕組みは、いわゆる人間的なことに深くかかわっていると考えられます。すなわち、遊び、笑い、狂気、迷信、芸術、発見（ひらめき）などなどです。

この授業は、そのような文化の仕組みについて、特に狂気、迷信に焦点を当てて講義します。

●授業計画　(Schedule)

１　文化とは
２，３　言語とメタ言語と論理階型
４，５　ベイトソンとアリエティ
６，７　宮本忠雄、木村敏、西田幾多郎、時枝誠記

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書はありません。参考書は授業中に紹介します。

科　目　名 (英訳)	スポーツと健康 (Sports and Health)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限 (10:00-10:50) 前半
担当教員	水野哲也	募集人数	15名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

このプログラムでは、偏らない思考や物の見方をどのようにして身に付けてゆくか?を実践的に学ぶことが重要な目標です。よって、この授業では、生活の身近にある「スポーツ」、また「健康」とは何か?、を原点に立ち返え、今一度考えてみたいと思います。

授業の中では、私（水野）の考える「スポーツとは?」、「健康とは?」を述べるだけでなく、受講者各自が考える「スポーツ」また「健康」とは?　を発表し、その本質について共に考えて頂きます。また、授業の中では教養として身に付けておきたい「スポーツと健康」に関連するいくつかのテーマについて、講義形式で解説します。

●授業計画　(Schedule)

初回　　私の考える「スポーツとは?」、「健康とは?」その１
第２回ー第３回　　「スポーツ」と「活性酸素」
第４回ー第５回　　「スポーツマンの健康」と「健康のためのスポーツ」
第６回ー第７回　　私の考える「スポーツとは?」、「健康とは?」その２

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

・「スポーツと健康」 水野哲也　至文堂、
・「健康スポーツドクターへの道」　福山正紀　南山堂
・「スポーツと健康の栄養学」　下村吉治　（有）ナップ

科　目　名 (英訳)	スポーツと心 (Sports and Mind)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限 (10:00-10:50) 後半
担当教員	水野哲也	募集人数	15名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

このプログラムでは、偏らない思考や物の見方をどのようにして身に付けてゆくか?を実践的に学ぶことが重要な目標です。よって、この授業では、生活の身近にある「スポーツ」と「心」に関連するいくつかのテーマについて講義形式で解説するとともに、各テーマについての理解を深められるよう、受講生による発表やディスカッションを交えて授業を進めます。

●授業計画　(Schedule)

初回　スポーツと心の関係性、　　第２回　スポーツと動機づけ
第３回　スポーツにおけるピークパフォーマンス、　　第４回　リラクゼーションと集中
第５回　メンタルタフネス、　　第６回　愛は脳を活性化する
第７回　心で語る「私にとってのスポーツと心」

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

・最新スポーツ心理学　日本スポーツ心理学会　大修館
・健康心理学概説　日本健康心理学会　実務教育出版
・身体活動とメンタルヘルス　ウイリアム・P・モーガン　大修館
・実戦 メンタルタフネス　ジム・レーアー　TBSブリタニカ
・愛は脳を活性化する　松本　元　岩波書店

科　目　名 (英訳)	自伝と社会 (Autobiography in society)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限 (10:00-10:50) 前半
担当教員	中島ひかる	募集人数	約15名

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

最近「自分史」というものが流行っていますが、そもそも自伝というのは、伝記や、一人称小説とどこが異なるのでしょうか？自伝を自伝として成立させる約束事（「自伝契約」）の概念を解説するとともに、ルソーの『告白』第1巻の冒頭部分を取り上げ、近代において自伝を書くとはどのような意味を持つ行為であったのかを考察します。自伝を書くに値する個人とはどのような存在で、自伝における「真実」とは何なのでしょうか。講義形式で進めますが、授業中に適宜、皆さんの考えを述べていただく場を設けます。

●授業計画 (Schedule)

初回　　序論（語りの人称、自伝・伝記・小説）
第２回ー第４回　著者・話者・登場人物
第５回　「真実」とは何か
第６回～第７回　近代における自伝（個人･真実･神)

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

プリントを配付します。

参考図書　　ルソー『告白』
フィリップ・ルジュンヌ『自伝契約』(水声社)

科　目　名 (英訳)	リベルタン文学と啓蒙 (Literature and enlightenment : Laclos, *Les Liaisons dangereuses*	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限 (10:00-10:50) 後半
担当教員	中島ひかる	募集人数	約15名

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

フランス18世紀末の書簡体小説、ラクロの『危険な関係』をとりあげ、「リベルタン」の思考方法が顕著に現れている箇所をテクストにそって講義形式で解説します。しばしば「女たらし」という意味にとられる「リベルタン」の思考･行動が、啓蒙の世紀に典型的な方法論を持ったものであったことを見ていきます。授業回数が少ないので、授業時間内に小説全てを読むことはできません。この小説全体を各自で読んでいただき、授業に取り上げた内容をもとにレポートを書いていただくことで成績評価を行います。

●授業計画 (Schedule)

初回　　序論（書簡体小説・話者、リベルタンとは何か）
第２回ー第３回　恋の始まり(誘惑の目的・手段)
第４回　リベルタンの自己形成
第５回～第６回　恋の破局（リベルタンのプライド）
第７回　まとめと意見交換

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

教科書：ラクロ『危険な関係』
岩波文庫上・下　　or 角川文庫

科　目　名 (英訳)	ドイツとヨーロッパの社会 (Society in Germany and EU)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜２時限　10：00～10：50 前半
担当教員	シンチンガー・エミ	募集人数	20人

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

ドイツ語で書かれた教科書を読みながら、ドイツとヨーロッパの社会について学んでいきます。

<u>原文を読む授業ですので、ドイツ語の4単位を持っていない方は、受講できません！</u>

ドイツ政府やＥＵのホームページも見ていきます。時間があればＤＶＤも見ます。

毎回予習をしてきてもらって、ドイツ語を訳していきますので、予習をすることが受講の条件です。

「ドイツ再統一」に至った経緯について学ぶことが目標です。

●授業計画　(Schedule)

初回　オリエンテーション、第１課（１ページ）

第２回～第３回　第２課と第３課　（３ページと６ページ）

第４回～第６回　第４課（９～１３ページ）を読みながらドイツ再統一に至った経緯を考えます。
インターネット、ＤＶＤも使用する予定。

第７回　理解の度合いを調べるため、試験を行います。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

- 「ドイツとドイツ語を話す国ぐに」朝日出版社
- 独和辞典は必携！

科　目　名 (英訳)	ドイツとヨーロッパの現在 (Germany and EU now)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜２時限　10：00～10：50 後半
担当教員	シンチンガー・エミ	募集人数	20人

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

ベルリンという特別な町について学ぶことによって、ドイツとヨーロッパの現在について考えていきます。

具体的には、1985年に初演されてから現在までベルリンで再演され続けている「　Ｌｉｎｉｅ　１」という、ベルリンの地下鉄を題材にした音楽劇の中から、抜粋した箇所を読んでいきます。

ベルリンについての理解を深めるため、初回は、オリエンテーションを行います。

<u>原文を読む授業ですので、ドイツ語の4単位を持っていない方は、受講できません！</u>

毎回予習をしてきてもらって、ドイツ語を訳していきますので、予習をすることが受講の条件です。

●授業計画　(Schedule)

初回　ベルリンについてオリエンテーション；教材のプリントを配布

第2回～第6回　「　Ｌｉｎｉｅ　１」より、抜粋を読んでいきます。毎回予習が必要です。
1年で習ったドイツ語より格段に難しいので、覚悟が必要です。

第7回　到達したところまでの内容について、試験を行います。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

- 授業中にプリントを配布します。
- 独和辞典は必携！

科　目　名 (英訳)	社会の中の数学 (Mathematics in society)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限(10:00-10:50) 前半
担当教員	清田正夫	募集人数	15名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

数学と日々の生活は無縁のものと考える人は多いが、身の回りにある道具や装置に数学の理論が応用されている例は無数にある。ここでは、CDの信頼性を保証する誤り訂正符号、機密事項の伝達に用いられる鍵公開暗号、CTスキャンの基本原理であるラドン変換を取り上げ、それらの数学的基礎を解説する。主として講義形式で行なうが、項目によっては学生に発表させることもある。

●授業計画　(Schedule)

第１回ー第２回　誤り訂正符号とハミング符号
第３回ー第４回　鍵公開暗号とRSA暗号
第５回ー第７回　フーリエ変換とラドン変換

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

プリントを配付する。

科　目　名 (英訳)	数理論理と形式言語 (Mathematical logic and Formal Language)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限(10:00-10:50) 後半
担当教員	清田正夫	募集人数	15名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

数理論理学とは記号を用いて論理を数学的に考察する学問分野である。命題論理、述語論理、直観主義論理、様相論理などの多様な論理が存在する。ここでは、主として第１階述語論理をタブロー法により解説する。さらに、自然言語の形式的取り扱いとしてチョムスキーの生成文法を学ぶ。授業は講義形式で行なうが、テーマによってはセミナー形式をとることもある。

●授業計画　(Schedule)

第１回ー第２回　命題論理の意味論と構文論
第３回ー第５回　タブロー法による第１階述語論理
第６回ー第７回　チョムスキーの生成文法

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

プリントを配付する。

科　目　名 (英訳)	音と音楽の数理 (Mathematics of Sound and Music)	開講学期 曜日・時限	前期・前半７回 木曜日２時限（10:00-10:50）
担当教員	中口悦史	募集人数	40名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

中世の教養で数学と関連の深かった音楽と，物理現象としての音を，数理的な視点から捉える。
基本的には講義形式で授業を進める予定。

●授業計画　(Schedule)

第１～２回　物理現象としての音
第３～４回　数学としての音楽
第５～６回　時間・周波数解析
第７回　まとめ

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書　特に指定しない
参考書　小方厚『音律と音階の科学』（ブルーバックス）
芥川也寸志『音楽の基礎』（岩波新書）
オリヴィエ・アラン『和声の歴史』（白水社文庫クセジュ）
小形正男『振動・波動』（裳華房テキストシリーズ-物理学）
寺沢徳雄『振動と波動』（岩波書店　物理テキストシリーズ）

科　目　名 (英訳)	社会とネットワーク構造 (Society and Network Structure)	開講学期 曜日・時限	前期・後半７回 木曜日２時限（10:00-10:50）
担当教員	中口悦史	募集人数	40名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

社会の様々な場面に見られるネットワーク構造を抽象的に考察し，現代のネットワーク科学への橋渡しをする。
毎回テーマに沿って，学生にデータ収集や解析など，手を動かしてもらい，それを基に講義を行う。

●授業計画　(Schedule)

第１～２回　社会に見られるネットワーク
第３～４回　ネットワークを解析する
第５～６回　成長・拡大するネットワーク
第７回　　まとめ

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書　特に指定しない
参考書　増田直紀，今野紀雄『「複雑ネットワーク」とは何か』（ブルーバックス）
アルバート＝ラズロ・バラバシ『新ネットワーク思考』（NHK出版）
マーク・ブキャナン『複雑な世界、単純な法則』（草思社）
一森哲男『グラフ理論』（共立出版）
伊理正夫ほか『演習グラフ理論』（コロナ社）

科　目　名 (英訳)	ゆらぎの科学　Ⅰ (生命現象と物理)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00–10:50） 前半
担当教員	千葉　司	募集人数	１０名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

１年生の時に学んだ力学や電磁気学が、医歯学の専門に直接に関わることは少ないかも知れない。ここでは、物理学と生物学の接点について、いくつかの例をゼミ形式で学ぶ。

毎回２人ずつ、教科書を１０～１５ページくらい分担を決めて発表をしてもらう。
関連する論文を読んでもらうこともある。

●授業計画　(Schedule)

第１回　説明と分担決め
第２回～第６回　発表
　第１章　水中での物体の動き
　第２章　生物のボディープラン
　第３章　物質の移動
　第４章　電気現象と生体での電気活動
第７回　まとめ

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：「よくわかる生物基礎物理学」最上善広 著（サイエンス社）
参考書：「ゾウの時間ネズミの時間」本川達雄 著（中公新書）

科　目　名 (英訳)	ゆらぎの科学　Ⅱ (ゆらぎと生体ーブラウン運動ー)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00–10:50） 後半
担当教員	千葉　司	募集人数	１０名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

１年生の時に学んだ力学や電磁気学が、医歯学の専門に直接に関わることは少ないかも知れない。ここでは、分子の熱運動によるゆらぎについて、それが目に見える形で現れたブラウン運動について、ゼミ形式で学ぶ。

毎回２人ずつ、教科書を１０～１５ページくらい分担を決めて発表をしてもらう。
関連する論文を読んでもらうこともある。

●授業計画　(Schedule)

第１回　説明と分担決め
第２回～第６回　発表
　第３章　１９世紀におけるブラウン運動の研究
　第４章　アインシュタインの理論
　第５章　ペランの実験
　第６章　ゆらぎと確率
　第７章　ブラウン運動の数学的モデル
　第８章　ブラウン運動の普遍性
第７回　まとめ

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：「ブラウン運動」米沢富美子 著（共立出版）

科　目　名 （英訳）	日常に関わる物理 Physics in daily life	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00-10:50） 前半
担当教員	越野和樹	募集人数	20名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

私たちはみな，毎日の暮らしの中で物理法則に従って生きています．例えば，自動車の停止距離はスピードの２乗に比例しますが，このことは物理理論によって明快に説明することができます．本講義では，このような日常生活に関わりの深い物理現象について，主として力学分野のテーマを対象とし，下記教科書を題材としてセミナー形式で議論します．

●授業計画　(Schedule)

第１回　マッハの原理，ニュートンの運動の法則
第２回　ケプラーの法則，ニュートンの万有引力の法則
第３回　エネルギー保存の法則，単振動
第４回　フックの法則，理想気体の法則
第５回　熱力学の第二法則，絶対零度
第６回　ブラウン運動，カオス理論
第７回　ベルヌーイの式

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

「人生に必要な物理」　ジョアン・ベイカー（和田純夫訳）　近代科学社

科　目　名 （英訳）	生活に必要な物理 Physics essential in daily life	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00-10:50） 後半
担当教員	越野和樹	募集人数	20名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

私たちはみな，毎日の暮らしの中で物理法則に従って生きています．例えば放射性原子は指数関数則に従って減衰してゆきますが，このことは物理理論によって明快に説明することができます．本講義では，このような生活に密着した物理現象について，主として電磁気学のテーマを対象とし，下記教科書を題材としてセミナー形式で議論します．

●授業計画　(Schedule)

第１回　ニュートンの色理論，ホイヘンスの原理
第２回　スネルの法則，ブラッグの法則
第３回　フラウンホーファー回折，ドップラー効果
第４回　オームの法則，フレミングの法則
第５回　マクスウェル方程式，特殊相対性理論
第６回　ブラックホール，ハッブルの法則
第７回　ビッグバン，人間原理

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

「人生に必要な物理」　ジョアン・ベイカー（和田純夫訳）　近代科学社

科　目　名 (英訳)	社会の中の科学 (Science in society)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00-10:50） 前半
担当教員	奈良雅之	募集人数	35名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

社会の中で話題になっている科学物質、科学現象を取り上げます。科学的な側面から基礎事項を確認するとともに、社会問題としても考えていきます。今回は、「水と酸素と二酸化炭素」という誰でもよく知っている物質に焦点を当てます。二酸化炭素がどうして温室効果ガスと言われるか、真面目に考えたことはありますか。燃焼の熱化学方程式、二酸化炭素の溶解度などの一般化学の知識はもちろんのこと、分子構造論や量子化学が理解できていないとその訳を説明することができません。医歯学の専門の授業では教えてもらわないけど、教養として身につけておきたい自然界のしくみを講義形式で解説します。

●授業計画　(Schedule)

初回　ニセ科学（疑似科学）
第２回ー第３回　二酸化炭素
第４回ー第５回　活性酸素
第６回ー第７回　水の機能

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

・「疑似化学入門」　池内　了著　岩波新書　　・「メディアバイアス」　松永和紀著　光文社新書
・「日本人はなぜ環境問題にだまされるのか」　武田邦彦著　PHP新書
・「活性酸素」　日本化学会監修　丸善　　・「水とは何か」　上平　恒著　講談社
・「水は何にも知らないよ」　左巻　健男著　携書　　・「量子化学」　真船文隆　化学同人

科　目　名 (英訳)	物質と生命現象 (Materials and life phenomena)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00-10:50） 後半
担当教員	奈良雅之	募集人数	15名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

我々の生存を支えている生命現象はきわめて複雑で、それにはタンパク質、糖質、脂質、核酸などの多種類の物質が関わっています。それらの物質の中で生命現象の直接的な担い手であるタンパク質に焦点を当てます。タンパク質は生化学（専門課程）でも勉強しますので、この授業ではタンパク質に光（電磁波）を当ててみて、その「光と影」について議論します。一方的な講義にならないように、毎回出されるテーマについて文献などで調べてきてもらい、授業中に発表する機会を設けますので、学生参加型の授業です。

●授業計画　(Schedule)

初回　序論
第２回―第３回　X線回折と核磁気共鳴によるタンパク質の立体構造解析
第４回―第５回　構造生物学の歴史、最近の動向
第６回―第７回　タンパク質の構造・機能解析における分光学の役割

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

「入門　構造生物学」　加藤龍一　編集 共立出版
「タンパク質の生命科学」　池内俊彦著　中公新書
「蛋白質機能の分子論」　濱口浩三著　学会出版センター
「タンパク質のかたちと物性」　中村春木・有坂文雄編　共立出版
「タンパク質の構造と機能」　G.A. Petsuko and D. Ringe, 横山茂之監訳、ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ･ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ

科　目　名 (英訳)	食品の科学 (Food Science)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限 (10:00-10:50) 前半
担当教員	澤野頼子	募集人数	30名

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

食品は私たちの健康や生命を維持するために欠かすことのできない大切なものである。人間にとって食品とは、身体の形成やエネルギー供給源として働く「栄養素」を与えるだけのものではない。「おいしさ」や「安全性」を兼ね備え、健康の維持や疾病の予防に有効な「機能性（生体調節機能）」をもたらすものでもある。そして、「食生活」、「食文化」という言葉が表すように、食は人類の進化の歴史の中で、生活環境や文化と密接に関連し、変遷を遂げてきた。本授業では、食の歴史的背景、食品の物性や食品成分の化学的性質から「おいしさ」や「機能性」についての理解を深めることを目的とした講義形式で解説する。

●授業計画 (Schedule)

第1回　序論　食の歴史的背景
第2回－第3回　食品の「おいしさ」を決める要因
第4回－第5回　食品成分の化学的性質
第6回－第7回　食品の機能性

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

「食品の科学」　上野川修一・田之倉優　編　東京化学同人
「わかりやすい食品化学」　吉田勉　監修　三共出版
「新訂　食品の機能化学」　宮澤陽夫・五十嵐脩　著　アイ・ケイコーポレーション
「食品物性学 －レオロジーとテクスチャー－」　川端晶子　著　建帛社

科　目　名 (英訳)	植物の科学 (Plant Science)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限 (10:00-10:50) 後半
担当教員	澤野頼子	募集人数	30名

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

植物は地球上のあらゆる生物の生存を支えている。動物の食物として役立つだけでなく、光合成によって大気圏の二酸化炭素を吸収して酸素を供給し、大気環境を保持する役割をもつ。また、人間は、太古に繁殖していた植物の遺体を化石燃料として、医療現場では植物中の有効成分から誘導された医薬品を利用している。本授業では、植物の構造・発生・成長・代謝などに関する基礎的な知識を講義を通して学び、人類と植物との関わりについて考える。

●授業計画 (Schedule)

第1回　序論　植物・細胞の構造と機能
第2回　植物の発生・成長
第3回　光合成
第4回　物質代謝
第5回　物質の移動
第6回　植物ホルモンの働き
第7回　植物の利用

●教科書および参考書 (Textbooks and materials)

「植物の生命科学入門」　神阪盛一郎・　ら　著　培風館
「植物生理学」　三村徹朗・鶴見誠二　編著　化学同人

科　目　名 (英訳)	生物の中の糖 sugar in an organism	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00-10:50） 前半
担当教員	勝又敏行	募集人数	20

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

糖は生物の中で構造体、エネルギー源をはじめとして、タンパク質、核酸、脂質などと結合して重要な機能を担っている物質である。糖の化学的性質および生体内での機能を、疾病との関連等最新の知見を交えながら講義形式で紹介していく。

●授業計画 (Schedule)

1. 糖とは何か
2. 糖の種類、および構造、性質
3. 糖の分析法
4. 植物における糖
5. 人の中の糖１
6. 人の中の糖２
7. 糖と疾病

● 教科書および参考書 (Textbooks and materials)

参考図書：糖鎖　永井克孝ほか　東京化学同人

糖鎖生物学　コールドスプリングハーバー　丸善

科　目　名 (英訳)	危険物の科学 science of a dangerous object	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00-10:50） 後半
担当教員	勝又敏行	募集人数	20

●授業の概要 (Outline of content and teaching method)

化学物質を扱うために、安全や環境保護など様々な理由から法による規制が行われている。その中で火災予防を目的として危険物が消防法により規定され、その取り扱いの監督者には資格が必要となる。危険物の化学的性質やその火災事例、消火法などを講義形式で紹介していく。

●授業計画 (Schedule)

1. 危険物とは何か
2. 第１類～第３類の性質
3. 第４類の性質
4. 第５類、第６類の性質
5. 関係法令
6. 消火法について
7. 火事の事例

● 教科書および参考書 (Textbooks and materials)

危険物取り扱い者試験の参考書

科　目　名 （英訳）	宇宙と生命 （Astrobiology）	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00-10:50） 前半
担当教員	服部淳彦	募集人数	50名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

古川さんや野口さんをはじめとする日本人が次々と宇宙に飛び立つ光景を見て、宇宙がますます身近な存在として感じられた学生さんも多いのではないだろうか。この講義では、宇宙環境、例えば無（微小）重力状態や宇宙放射線などが、さまざまな生物（ヒトも含めて）に与える影響について解説する。なお、この授業は講義形式をとる。

●授業計画　(Schedule)

第1回　宇宙環境
第2回　無（微小）重力と生物
第3回　光と闇と生物
第4回　宇宙放射線と生物
第5回　フリーラジカルと生物
第6回　宇宙医学
第7回　長期宇宙飛行に備えて

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書および参考書などは適宜指示する。

科　目　名 （英訳）	老化と寿命 （Aging and life-span）	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日２時限（10:00-10:50） 後半
担当教員	服部淳彦	募集人数	50名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

「生あるものは必ず死を迎える」というが、果たして本当であろうか。生物学的に言えば、ＮＯである。細菌などの原核生物は無限に分裂を繰り返し、生き延びることができるのである。一方、我々ヒトを含めた有性生殖を行う動物は、どんなに環境を整えても必ず死が訪れる。この講義では、「老化」に焦点を当て、ヒトを含めた生物における老化現象と老化と関連した病気について解説する。なお、この授業は講義形式をとる。

●授業計画　(Schedule)

第1回　老化とは？
第2回　老化の原因
第3回　骨の老化
第4回　脳の老化
第5回　アルツハイマー病
第6回　遺伝病
第7回　抗加齢の可能性

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書および参考書などは適宜指示する。

科　目　名 (英訳)	生物と環境 (Living things and the environment)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日2時限(10：00 - 10：50) 前半
担当教員	伊藤正則	募集人数	25名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

生物は外部環境からの刺激を受容し、特定の刺激に対して、ほぼ定型的な反応を示す。この授業では、刺激を受容してから反応するまでの過程とこの反応を制御するメカニズムを器官、組織、細胞、分子レベルで理解することを目的とする。また、基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを説明する技術を習得することを目指す。講義形式で行う他に、特定のテーマについて発表する機会を設ける。

●授業計画　(Schedule)

第1回　概論－環境適応とその多様性
第2回　恒常性のしくみ
第3回　神経系と内分泌系の協調
第4回　生体防御
第5回　行動による適応
第6回　生物間相互作用
第7回　生態系

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

必要に応じて関連資料を配布する。
「ヒューマンバイオロジー 第7版」　S. S. Mader著　坂井建夫、岡田隆夫 監訳　医学書院
「イラスト生化学・分子生物学」　前野正夫、磯川桂太郎 著　羊土社

科　目　名 (英訳)	生物間のコミュニケーション (Communication between living beings)	開講学期 曜日・時限	前期 木曜日2時限(10：00 - 10：50) 後半
担当教員	伊藤正則	募集人数	25名

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

この授業における目的は次の①から③である。
① 生物間におけるコミュニケーションの様式とその意義を理解する。
② この分野の研究の現状を理解する。
③ 基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを説明する技術を習得する。
講義形式で個体から分子レベルで説明する他に、特定のテーマについて発表する機会を設ける。

●授業計画　(Schedule)

第1回　概論
第2回　pheromone、song
第3回　母と新生児間のコミュケーション
第4回　動物の社会
第5回　言語の発達、脳、遺伝子
第6回　植物における個体間コミュニケーション
第7回　コミュニケーションの進化

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

必要に応じて関連資料を配布する。
「脳とホルモンの行動学」　近藤保彦 他 編　西村書店
「脳・神経科学入門講座　改訂版」　前・後編　渡辺雅彦 著　羊土社

「医療と社会」講義

担当者：皆吉淳平

１、概要（含目的）

医療は人間社会にとって欠くことのできない要素である。それは同時に、人間社会と完全に切り離された医療を考えることはできないということも意味している。医療者の眼前に現れる患者や、医薬品あるいは医療機器、さらにルールや制度、思想を通して、医療は社会と深くかかわりあっている。

そこで「医療と社会」の講義では、医療と社会とのかかわりあいを考えるために、とくに「社会」の側面からアプローチする。そしてこの講義の目的は、医療とのかかわりあいを通して、「社会」についての理解を深めることである。よってここでの「社会」とは、医療者のコミュニティという意味での社会ではなく、医療を包摂する現代社会という意味での社会である。

より具体的には、次の二つの問題を取り上げる予定である。まず、現代社会を特徴づける「グローバル化」という問題である。20 世紀後半以降、人びとの移動能力は著しく向上した。ヒト、モノ、情報のグローバルな移動が容易となった現代社会において、医療に問われている課題を改めて論じる。

そしてもう一つが、医療と社会との接点で生じる「社会的合意形成」の問題である。この問題には、患者を救いたいという医療者の思いだけでは解決が難しい、医療技術の発展をめぐる政治や経済、さらに多様な価値観を背景とした、社会的意思決定についての議論がある。社会的合意形成について考えるためには、「社会」についてより一層の理解の深化が求められることだろう。

この講義を通して、これまでの主題別科目で学んだことや拡充した視野と、総括セミナーでのレポート執筆による思考の深化を、架橋してもらいたい。

２、１～２年の間に読んでおくとよい書籍、興味や関心の持ち方など

（１）この講義は、主題別セミナーと並行して開講されるものであり、パッケージ化された知識やハウ・トゥー的な内容を求めるのではなく、各自の問題意識に引き付けながら考えてもらいたい。また、医療にかかわらなくとも、現代社会の問題について関心を持っていることが望まれる。

そして、一つの事象あるいは社会的問題に対して、さまざまな捉え方や考え方があるということ、多様なアプローチの可能性に対して、興味を持ってもらいたい。このことは、自分自身の考え方を客観視し、健全な批判的視点の獲得へとつながるはずである。

（２）　なお、この講義の直接の参考文献ではないが、社会的問題に対するさまざまな捉え方や考え方について示唆に富む（主として社会学に関連する）書籍を、以下に紹介する。

・パオロ・マッツァリーノ『反社会学講座』（ちくま文庫）筑摩書房、2007

日本の社会学者が偽名で書いたものと考えられ、不真面目な雰囲気を漂わせているが、とても健全な批判的視点からの社会学入門書となっている。この「反社会学」を「反〇〇学」と他の学問領域に置き換えたらどうなるか、と考えながら読んでもらいたい。

・西原和久/油井清光編『現代人の社会学・入門―グローバル化時代の生活世界』有斐閣、2010

・藤田弘夫・西原和久編『権力から読みとく　現代人の社会学・入門〔増補版〕』有斐閣、2000

前者は「グローバル化」をキーワードとして編まれた社会学の入門的書籍。さまざまな具体的な事象を取り上げながら、わかり易く書かれている。同様に後者は、「権力」をキーワードとして編まれたもの。いずれも、具体的な社会的問題を考える際に示唆に富む。

・中川輝彦・黒田浩一郎編『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房、2010

医療社会学についての入門的なテキスト。この講義では、必ずしも「医療社会学」について取り上げるわけではないが、興味のある学生は手に取ってもらいたい。

（3）・この講義の担当予定者の専門領域は「社会学」であるが、「医療社会学」の講義をするのではなく、「社会」について考えることが主たるテーマとなる。

・（概要にもある通り）この講義で取り上げる「社会」とは、医療者のコミュニティという意味での社会ではなく、医療を包摂する現代社会という意味での社会である。

・１年次に「社会学」関連の科目を履修していることは、前提としない。

「医療と法」講義

担当者：河合正雄

１、概要（含目的）

やや限られた授業時間であるため、テーマを絞って講義する。具体的には、薬害問題をとりあげる予定である。この問題をめぐっては受講者の中にも様々な見解があるだろうが、法学的な視点から検討する。講義を中心として進めるが、できる限り実践的な見地から授業を展開したい。従って、条件によっては、当事者をゲストスピーカーとして招聘することも考えている。

２、１～２年の間に読んでおくとよい書籍、興味や関心の持ち方など

（１）このような問題をつかむ前提として、医療や薬害をとりまく（潜在的なものも含めた）社会状況を把握することが不可欠である。従って、薬害問題に医師・歯科医師がどのようにかかわってきたかに関するルポタージュ・小説や当事者の声などを記した、自然科学系以外の書物に目を通すことが好ましい。さらに、一般論としては、各人の興味関心に応じつつも、広く社会的・政治的事柄に関心を持つべきである。

（２）私の授業を履修されたことのある方にはご説明するまでもありませんが、私は法学の中でも憲法学を専攻しております。この授業では、「医歯学生のための法学概論」や「法学」とは違い、日本国憲法の基本書的な講義からではなく、いきなり医療に関するトピックをとりあげますが、その中で、公権力や社会的権力と、医療従事者や患者の関係について考える視座を提供できれば幸いです。

「文化と人間」セミナー

担当者：板橋作美

１、概要（含目的）

文化を獲得して、はじめて人間は、単なる動物としてのホモ・サピエンスではない、真の人間になります。この授業は、その「文化」について考えるものであり、教養科目の文化人類学Ｉで論じたことを、さらに深めるものです。

ここで考える文化は、文化住宅や文化包丁の文化ではもちろんなく、文化の日の文化でもなく、またパソコンや自動車などの物ではなく、芸術や思想などでもなく、もっと根元的な次元での文化です。

すなわち、人間が世界（ありとあらゆるもの、こと）をとらえるために作り上げている、比喩的に言えば、混沌カオスを秩序コスモスに変換するための装置、デバイス・ソフトです。

その文化で大きな位置を占め、重要な働きをするもの、または文化そのものであるのが、言語であり、言語の仕組みは、いわゆる人間的なことに深くかかわっていると考えられます。すなわち、遊び、笑い、狂気、迷信、芸術、発見（ひらめき）などなどです。

この授業は、そのような文化の仕組みについて、考えていくものです。

２、問題設定の例（セミナーで設定するとよい問題の例示）

論理階型と文化、言語　／　レトリックの論理
迷信の論理　／　統合失調症と言語、論理
落語のオチ、サゲ　／　和歌と言葉遊び
井上ひさしの言葉遊び

３、その他

（１）とにかく、知的好奇心をもっていてほしい。

参考になる書籍

中川敏『異文化の語り方』、世界思想社
三浦俊彦『ラッセルのパラドクス』岩波新書
Ｓ・アリエティ『創造力』、新曜社
宮本忠雄『言語と妄想』、平凡社
木村敏『異常の構造』、講談社現代新書
中村雄二郎『場所』、弘文堂
グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』、『精神と自然』、新思索社
鈴木棠三『ことば遊び』、中公新書
井上ひさしの作品（表裏源内蛙合戦など）
桂枝雀『らくごＤＥ枝雀』、ちくま文庫
佐藤信夫『レトリック感覚』ほか、講談社学術文庫
渡辺慧『知るということ』、東京大学出版会
山梨正明『比喩と理解』、東京大学出版会
野内良三『レトリックと認識』、ＮＨＫブックス

「生命と人間」セミナー

担当者：田中智彦(藤井達夫)

１、概要

本セミナーの目的は医学的な理解からだけでは捉えきれない、生命および死の持つ意味の広がりや深さを受講生の問題関心にもとづき探求することにある。この探求は、生と死を人間の社会的および歴史的な営みの中で捉える試みに他ならない。本セミナーでは、人間を「社会的かつ歴史的」存在として定義し、そこから生命および死の問題について熟議する。

医療に従事する人間が、医療の特殊性に由来する職業倫理を遵守せねばならないことは言うまでもない。しかし、ただ職業倫理に従いさえすれば、医療者が倫理的な問題から解放されるわけでないことも自明であろう。その理由は単純である。医療が社会的活動の一つであり、他の社会的活動と深く結びついているからである。また、何より医療者自身が、医療の専門家である前に、社会の中で他の人間たちと共生し、その社会に固有の慣習や規範を共有する一人の人間だからである。ここから、生命や死が有する倫理的な意味を社会的な営みの広がりの中で捉える思考や態度が求められるのである。

また、生や死が有する価値あるいは意味は歴史的な蓄積の下に形成されてきた。したがって、現代社会において生や死の問題に真剣に向き合うためには、その歴史の深みの中で思考することが必要となる。このことは、日本における臓器提供の現状を一つとっても明らかである。

以上の目的のために、まず、セミナーにおいて倫理学および歴史学のそれぞれの視点から生命や死の問題を論じている基礎的な文献を取り上げる。そうすることで、「社会的かつ歴史的」存在として定義される人間の生命や死について、受講生に共有された理解を培う。その上で、一、二年次で学んだ人間と生命についての多様な学問的アプローチとその理解を素地としつつ、受講生が自ら設定した問題にもとづいて総括レポートを作成すること、これが本セミナーの最終的な目標である。

２、問題設定の例

・近代日本における生死観の変遷　・生命を操作する医療とその倫理的問題　・QOL と優生学
・臨床研究に対する規制とその倫理的根拠　・孤独死と医療　・医療格差と生命の平等

３、その他

生命や死の問題を医学的な関心からだけでなく、人間の社会的および歴史的な営みとして理解し、関心を持つ姿勢が求められる。そのためには、現代社会の一員としての自覚が不可欠である。そのような自覚を滋養するために必要と思われる書籍を挙げておく。

マルティン・ハイデガー『存在と時間』　プリーモ・レーヴィ『アウシュヴィッツは終わらない』　ノルベルト・エリアス『死にゆく者の孤独』　フィリップ・アリエス『死の歴史』　ミシェル・フーコー『性の歴史Ⅰ』　エマニュエル・レヴィナス『存在の彼方へ』　金森修『〈生政治〉の哲学』　市野川容孝『生命倫理とは何か』　柳田邦夫『「死の医学」への日記』　松本清張『砂の器』

「言語と人間」セミナー

担当者：土佐朋子

１、概要（含目的）

本セミナーは、言語に関わる人間の営みについて、主に文学作品の考察を通して探求する。

文学は、利便性の向上や作業の効率化など、いわゆる社会の発展というものに直接寄与するものではない。むしろ、文学は、虚構という機能を活かして、「個」に寄り添い、個別具体的な「生」や「存在」を主たるテーマとする。したがって、必然的に社会を支配する「権力」や、疑いもなく指向されがちな「社会的発展」とは対極に位置するものといえよう。なぜなら、「権力」の発動と「発展」の促進にとって必要なのは、個別具体的な人生ではなく、それらが捨象された総体だからである。

文学は根源的に、そのような権力や社会に抹殺された個別具体的な存在を描き出してきた。そこに、文学が担う役割があったといえる。換言すれば、文学は、固有の存在として生きた人間が、その証として求めた「語り」なのである。だからこそ、人類は、その誕生とともに「文学」を求め、創作し続けているのであろう。

文学は「語り」である。「語り」を紡ぎ出すのは、いうまでもなく「ことば」である。文学作品の「語り」を、そこに綴られた「ことば」を通して読み解こうとする行為は、他者の「語り」を、他者が発した「ことば」を通して理解しようとする行為と同じである。その意味で、文学作品は一人の他者である。文学作品という他者の「ことば」を完全に理解し尽くすことはできない。「ことば」による他者理解は、それほど容易なことではなく、むしろ他者同士である以上、不可能であるという前提に立つべきであろう。それでも、「ことば」を通して、他者＝文学作品内部に迫っていく、本セミナーはそのような挑戦をする場である。

２、問題設定の例（セミナーで設定するとよい問題の例示）

・「言葉」が創り上げる「事実」
・「語り」の中の言語
・「記憶」と「言語」―村上春樹『レキシントンの幽霊』を中心に―
　など。

３、その他

（１）文学は、まず作品を読まなければ先に進めない。理論書や参考書よりも、作品そのものを読んで下さい。古典から現代、また国内外、ジャンルは問いません。自分が興味を持つ作家、作品を選んで、できるだけ多く文学作品を読んでおいて下さい。

（２）本主題の選択の可能性がある人は、後期の文学ＡⅡまたはＢⅡはできるだけ受講した方がよい。

「制度と人間」セミナー

担当者：青山豊

１、概要（含目的）

本セミナーでは、人間との関わりにおいて医療制度がいかなる理由付けにより構築されてきたのか、また今後構築されていくべきなのかにつき、参加者の積極的なコミットメントを前提にゼミ形式で議論を行う。理論的に言えば、国家が関与する公的制度として医療を構築する必然性はない。「小さな政府」を志向して個人の自由を最大限に尊重するリバタリアニズムからすると、むしろこれは当然の帰結となりうる。しかし少なくとも現在の日本ではそうした選択がとられていない。医療従事者に公的資格を設定し、医療提供施設についても法律で様々な規制を行うことで一定水準の医療を安定的に確保できるシステムを国が構築・運営している。また、貧富に関わりなく国民が医療を受けられる公的医療保険制度が整備され、国民皆保険制度として全国民の加入が義務付けられている。そして、このように医療制度を国家の管理下で運営する根拠としては、①福祉国家理念と②医療の正義がまずは挙げられる。特に②については、経済的価値と生命的価値との衝突を考えさせる契機を与えてくれるだろう。治療を諦める際の理由として経済的理由があっていいのか。生命的価値よりも経済的価値の方を優先させるという選択は一般的な正義感情に反するはずである。生命的価値の優越性が社会的コンセンサスになりうるのであれば、社会における公共的存在である国家がこうした医療の正義を実現するべく医療の諸制度を整備して充実させることが大きな責務となってくる。これらの点を考慮に入れながら、日本の具体的な医療制度をこちらから提示した上で、その根底にある発想を明らかにし、その是非について参加者には積極的な議論を展開してもらいたいと考えている。

３、その他

（１）　本セミナーでは「制度」を手がかりに医療を眺めることに重点を置くため、医療を取り巻く現在の制度状況を厚生労働省のホームページ等にアクセスして事前に把握しておいてもらえればスムーズにセミナーのスタートが切れるように思われる。なお、事前の読破が望まれる書籍として、池上直己・J.C.キャンベル『日本の医療－統制とバランス感覚』（中公新書、１９９６年）と島崎謙治『日本の医療－制度と政策』（東京大学出版会、２０１１年）を挙げておく。

（２）　基本的に日本の統治制度、特に行政機関のはたらきについて一定程度の知識があることを参加者には望みます。そのためには、私が担当します法学Ⅱを受講済みであることが最も望ましいでしょう。この法学Ⅱでは、公権力にとって手かせ足かせとして作用する国の最高法規であるところの憲法を中心に、国会・内閣・裁判所を始めとする政治（統治）機構が基本的人権の保障との関わりにおいていかなる機能を果たすのかを説明しますので、本セミナーに参加するに際しての最適な事前学習の機会となるのではないかと思われます。

「時間と人間」セミナー

担当者：飯田卓

１、概要（含目的）

本セミナーでは、時間の観点から人間存在についてアプローチしてゆきます。人間は時間的存在であり、様々な時間的拘束のもとに生きています。とはいえ、ここでは、人間から独立に時間なるものが存在すると想定したうえで、そうした時間が一方的に人間を規定するあり様を考察するわけではありません。むしろここでの目的は、時間が――様々な社会・文化・歴史的状況に置かれた――人間の行いを経由することによって初めてその（時間的）意味を獲得し、同時にそうした人間の行いもまた時間を基礎にして初めて成立するという事情を認めたうえで、なおかつ人間の行いに照準することによって、時間と人間との関係を考察することにあります。時間は人間の行いとともに構成される、これが本セミナーを貫く命題です。

２、問題設定の例（学生がセミナーで設定するとよい問題の例示）

・時間と死生観――現在、過去、未来とは何か
・時間と社会・文化――時間の比較社会・文明学
・時間と歴史――想起、記憶、言語行為（物語り）と歴史記述
・時間と権力・支配――産業時間の構成と労働時間
・時間と音楽・リズム――生の躍動と相互同調（人間）関係

３、その他

（１）　時間について、聖アウグスティヌスは次のように述べています。「時間とは何かと問われなれば、私はそれが何であるかをわかっている。しかし、もし問われたならば、たちまちわからなくなる」（『告白』）と。

時間という主題は、およそ人間の歴史と同じくらい古い歴史を持っており、時間には――常識的にも学問的にも――未知の要素が限りなくあります。例えば、空間においては前後・左右に移動でき、高度な技術を用いれば上下の移動も可能ですが、なぜ数分前の失態でさえ時間を逆行してやり直すことができないのでしょうか。時間は絶えず前進するといわれていますが、極微小世界においても時間に前後の揺らぎはないのでしょうか。タイムトラベルは本当に可能なのでしょうか。予知や預言はいかなる意味で可能なのでしょうか。時刻は一体どこまで厳密に決めることができ、どこまで正確に計ることができるのでしょうか。そもそも時を計るとはいかなることなのでしょうか。宇宙誕生のビックバンの時間とはいかなるものであり、その瞬間的時刻に意味がないとすれば、それは一体どういう意味なのでしょうか。宇宙誕生以前にも時間は存在したのでしょうか。時間が意味をなさないのは、時空が存在しなかったからなのでしょうか。

さらに、時間について自然科学が取り扱うことのできる問題の範囲は限定されているとはいえないでしょうか。とりわけ人間の感性・知性、人間集団と関わる問題について、それらを自然科学的に説明しようとすると、その問題の本質が捨象されてしまうことはないでしょうか。絵画鑑賞と音楽鑑賞における時間感覚の違い、広大な平野で農業を営む人間と人口密度が高く人間の移動が激しい都会に住む人間の時間感覚の違い、前近代社会と近・現代社会における時間感覚の違い、赤子の時間感覚、精神病理者の時間感覚、死に直面した際の時間感覚等、人間の時間感覚というものには無限の多様性が考えられます。

「時間と人間」を主題とする本セミナーは、これまでに時間に関して何かひとつでも疑問に思ったことのある学生向けの内容となっております。ここでは、各自の興味・関心に基づく問題設定のもとに時間を考察してゆくことを通じて、人間存在を理解することを目指します。

なお、1〜2 年生の間に各自の興味・関心にしたがって（一冊だけでも）読んでおくとよい書籍として、比較的平易な次の文献を挙げておきます。

アンリ・ベルグソン『意識に直接与えられたものについての試論――時間と自由』ちくま学芸文庫、
ノルベルト・エリアス『時間について』法政大学出版局、
エドワード・ホール『文化としての時間』、
ルートヴィヒ・クラーゲス『リズムの本質』みすず書房、
エルンスト・マッハ『時間と空間』法政大学出版局、
ゲルハルト・ドールン-ファン・ロッスム『時間の歴史――近代の時間秩序の誕生』大月書店、
一川誠『大人の時間はなぜ短いのか』集英社新書、
大森荘蔵『時間と自我』青土社、木村敏『時間と自己』中公新書、
佐藤文隆『量子宇宙をのぞく』講談社ブルーバックス、
広井良典『死生観を問いなおす』ちくま新書、
真木悠介『時間の比較社会学』岩波現代文庫、等。

（2） 1980 年代以降、急速にグローバリゼーションと呼ばれる現象が世界を席巻するようになり、今やこの現象は、経済領域だけではなく、政治、文化、社会等あらゆる領域に及んでいますが、こうしたグローバリゼーションの過程を、例えば村落から都市へ、共同体から国家へ、さらには国際化や地球化へといった空間的広がりのなかで出現した現象としてみなすのであれば、時間 - 空間論的にはどこまでも空間論に留まります。

しかし、グローバリゼーションの、あるいはその先にあるポスト・グローバリゼーションの課題は、空間論からだけではなく、時間論の観点を組み込むことによって初めて解決の糸口を見出すことのできる問題が多いように思われます。われわれは今や、空間の時代から時間の時代へと旋回してゆく必要があるのです。人間に残されている多くの課題の中には、例えば宇宙開発、人間の寿命の延命化、地球環境の保全と持続可能性の追求、多文化の共生、幸福の追求等がありますが、これらはいずれも時間についての問い（未来、持続性、自由等）と深く関わっています。

その意味で時間についての考察は、文化、生命、言語、制度についての考察と並んで、あるいはそうした考察と密接に関わりつつ、21 世紀に生きる人間にとって極めて重要な主題として位置づけることができるように思います。

以上

東京医科歯科大学全学共通科目履修規則

（平成１６年４月１日
規則第２１７号）

（趣旨）

第１条　東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成１６年規程第４号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（授業科目の編成）

第２条　全学共通科目における授業科目は、次の４系をもって編成する。

自由教育講義系
自由教育実習系
自由教育セミナー系
基礎教育系

（授業科目及び単位数）

第３条　前条の各系に属する授業科目及び修得すべき単位数等は、別表１に定めるとおりとする。

２　前項の授業科目及び修得すべき単位数等は、教養部教授会の議を経て定めるものとする。

（１単位当たりの授業時間）

第４条　学則第３６条に定める１単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

⑴ 講義については、１５時間
⑵ 演習については、３０時間
⑶ 実験及び実習については、４５時間

（履修届）

第５条　学生は、別に定める授業科目の中から、履修しようとする授業科目を所定の期日までに届け出なければならない。

（定期試験）

第６条　履修した授業科目については、試験を行う。

２　前項の規定にかかわらず、実験、実習を伴う授業科目又は試験を行うことが困難な授業科目等で、平常の学修の成果を評価して成績を与えることが適切と認められる場合には、試験によらず、指定した課題についての報告等をもって試験に代えることができる。

３　第１項の試験については、別に定める。

４　試験に合格したときは、所定の単位を与える。

（学習の評価）

第７条　履修した授業科目の成績については、別表２により学習の評価を行う。

２　前項の規定にかかわらず、前条第２項に該当する授業科目のうち、第１項により難い場合の学習の評価は、別表３により行う。

３　第１項及び第２項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。
４　教養部長は、学習の評価の結果を学生に通知する。

（再履修）
第８条　前条により、「不可」又は「不合格」の評価を得た授業科目については、所定の手続きにより再履修することができる。

（懲戒）
第９条　教養部長は、懲戒に相当すると思われる行為があったときは、学則第５８条に定める懲戒の手続きをとるものとする。なお、手続きについては別に定める。

（進級要件）
第１０条　別表１（１）に定める単位をすべて修得しなければ、第２学年に進級することができない。
２　別表１（２）に定める単位をすべて修得しなければ、第３学年に進級することができない。
３　別表１（３）に定める単位をすべて修得しなければ、第４学年に進級することができない。
４　全学共通科目の単位の認定については、教養部教授会の議を経て、教養部長がこれを行う。
５　教養部長は、前項の認定の結果について各学部長に通知する。
６　２年以内に、別表１（１）に定める単位をすべて修得することができない学生には、学則第３３条による退学を命ずる。ただし、当該期間には、休学の期間を算入しない。

（歯学部口腔保健学科編入学生の履修）
第１１条　学則第１８条及び第１８条の２に定める歯学部口腔保健学科編入学生の全学共通科目に係る履修については、別に定める。

（補則）
第１２条　この規則に定めるもののほか、全学共通科目の履修に関する必要な事項は、教養部教授会が別に定める。

附　則
１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
２　国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学に平成１６年３月３１日に在学し、引き続き本学の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成１６年４月１日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成１８年３月３１日規則第１０号）
１　この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
２　平成１８年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）および平成１８年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表１の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２０年３月31日規則第８号）
１　この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　平成２０年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２０年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（１）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２１年３月１９日規則第１１号）

１　この規則は、平成２１年４月１日から施行する。

２　平成２１年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２１年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（１）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２２年３月３０日規則第４０号）

１　この規則は、平成２２年４月１日から施行する。

２　平成２２年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２２年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表１、別表２及び別表３の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２３年３月４日規則第１４号）

１　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

２　平成２３年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２３年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

（2）第 2 学年

授業科目			修得すべき単位数						備考
			医学部			歯学部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学専攻	検査技術学専攻		口腔保健衛生学専攻	口腔保健工学専攻	
基礎教育系	教養教育	生命科学基礎	2			2			
		主題別選択Ⅰ	1			1			
	連携教育	教養英語				4			
		情報科学演習				1			
		サイエンスPBL				1			
		生命科学(人体の生物学)				2			
		生命科学(生物物理化学)				2			
		人文社会科学総合講義				2			
第2学年　小計			3			15			

（3）第 3 学年

授業科目			修得すべき単位数						備考
			医学部			歯学部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学専攻	検査技術学専攻		口腔保健衛生学専攻	口腔保健工学専攻	
基礎教育系	教養教育	主題別選択Ⅱ	1			1			
		主題別人文社会科学セミナー	2			2			
第3学年　小計			3			3			
全学共通科目　合計			40	29	32	52	26	26	

別表2

摘　要	成績区分	評価区分	単位認定
第７条第１項に該当する授業科目	100～90 点	秀	合格
	89～80 点	優	
	79～70 点	良	
	69～60 点	可	
	59～0 点	不可	不合格

別表3

摘　要	成績区分	評価区分	単位認定
第７条第２項に該当する授業科目	―	合格	合格
	―	不合格	不合格

教養教育使用予定教室一覧

科目名	教員	教室	場所
語り(ナラティブ)の構造	土佐	共用セミナー4	M&Dタワー22階
医療といのちの歴史学	藤井	共用セミナー5	M&Dタワー15階
文化・言語・笑い	板橋	医学科講義室	3号館2階
スポーツと健康	水野	共用セミナー6	M&Dタワー15階
自伝と社会	中島	共用セミナー7	M&Dタワー14階
ドイツとヨーロッパの社会	シンチンガー	共用セミナー8	M&Dタワー10階
社会の中の数学	清田	共用セミナー11	M&Dタワー6階
音と音楽の数理	中口	大学院講義室2	M&Dタワー13階
ゆらぎの科学(I)	千葉	演習室5-4	3号館5階
日常に関わる物理	越野	共用セミナー12	M&Dタワー6階
社会の中の科学	奈良	大学院講義室3(※1)	M&Dタワー11階
食品の科学	澤野	共用セミナー1	M&Dタワー24階
生物の中の糖	勝又	共用セミナー2	M&Dタワー23階
光と生命	服部	大学院講義室4	M&Dタワー9階
生物と環境	伊藤	共用セミナー3	M&Dタワー23階
言語表現と時間認識	土佐	共用セミナー4	M&Dタワー22階
医療といのちの倫理学	藤井	共用セミナー5	M&Dタワー15階
文化・言語・狂気	板橋	医学科講義室	3号館2階
スポーツと心	水野	共用セミナー6	M&Dタワー15階
りベルタン文学と啓蒙	中島	共用セミナー7	M&Dタワー14階
ドイツとヨーロッパの現在	シンチンガー	共用セミナー8	M&Dタワー10階
数理論理と形式言語	清田	共用セミナー11	M&Dタワー6階
社会とネットワーク構造	中口	大学院講義室2	M&Dタワー13階
ゆらぎの科学(2)	千葉	演習室5-4	3号館5階
生活に必要な物理	越野	共用セミナー12	M&Dタワー6階
物質と生命現象	奈良	大学院講義室3(※1)	M&Dタワー11階
植物の科学	澤野	共用セミナー1	M&Dタワー24階
危険物の科学	勝又	共用セミナー2	M&Dタワー23階
老化と寿命	服部	大学院講義室4	M&Dタワー9階
生物間のコミュニケーション	伊藤	共用セミナー3	M&Dタワー23階
生命科学基礎		医学科講義室	3号館2階
		大学院講義室4	M&Dタワー9階

※1　5/10のみ大学院講義室1(M&Dタワー21階)

キャンパスマップ

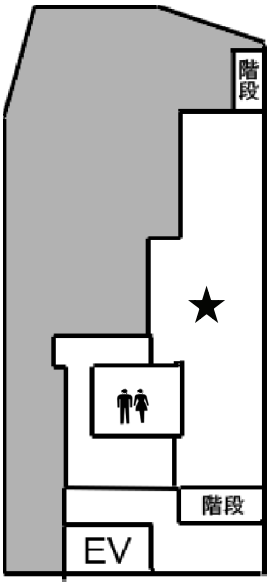
国立大学法人
東京医科歯科大学
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY
キャンパスマップ

1	1 号館西 【1 号館・管理棟】
2	2 号館 【2 号館・附属教育施設等】
3	1 号館東 【歯科研究棟】
4	7 号館 【歯学部校舎棟】
5	歯科棟北 【歯科棟】
6	歯科棟南 【歯科外来事務棟】
7	10 号館 【総合教育研究棟】
9	医科 A 棟 【医科新棟】
10	医科 B 棟 【医科新棟】
11	3 号館 【医歯学総合研究棟（Ⅰ 期棟)】
12	M&D タワー 【医歯学総合研究棟（Ⅱ 期棟)】
13	5 号館
14	6 号館
15	8 号館南 【共同研究棟】
16	8 号館北 【RI 実験施設棟】
17	生体材料工学研究所
18	難治疾患研究所駿河台棟
19	12 号館 【駿河台臨床研究棟】
20	看護師宿舎 （レジデンス茗芳）

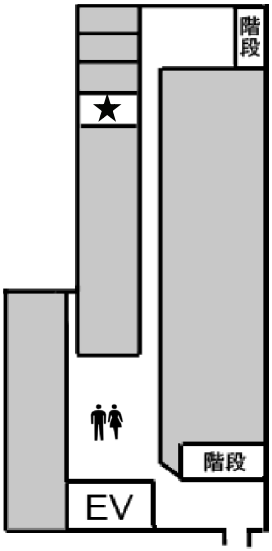
使用予定教室配置図

エレベーターは混み合いますので3フロア以内の移動は階段を使いましょう

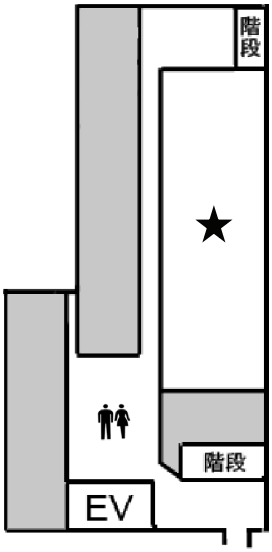
3 号 館



B1階:解剖実習室

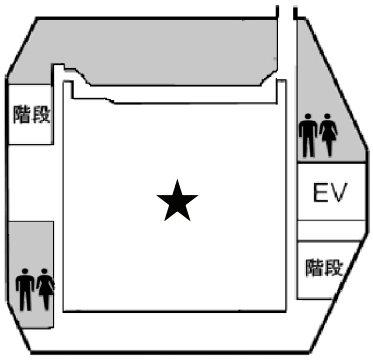


5階:演習室5-4

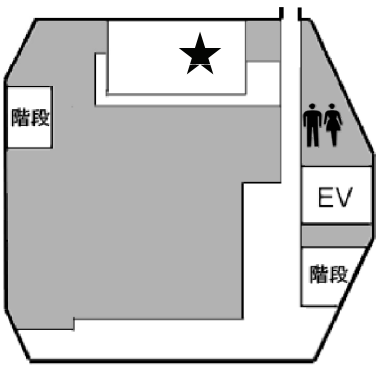


2階:医学科講義室

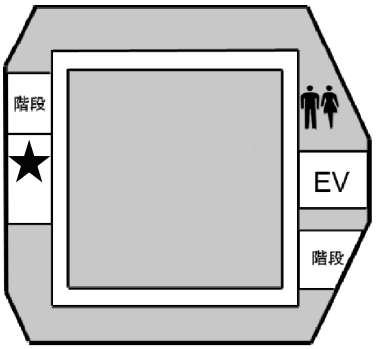
M&Dタワー



2階:鈴木章夫記念講堂



4階:図書館情報検索室



6階以上:以下参照

共用セミナー室 1	24階	共用セミナー室 8	10階
共用セミナー室 2･3	23階	共用セミナー室 11･12	6階
共用セミナー室 4	22階	大学院講義室 2	13階
共用セミナー室 5･6	15階	大学院講義室 3	11階
共用セミナー室 7	14階	大学院講義室 4	9階